ポケモン不思議のダンジョン　夢と希望

ミュウ＆ツタージャ＆デスピサロ&ジンオウガ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ポケモン不思議のダンジョン　夢と希望

【Ｎコード】
Ｎ７９１３Ｓ

【作者名】
ミュウ＆ツタージャ＆デスピサロ＆ａｍｐ；ジンオウガ

【あらすじ】
ここはポケモンだけが暮らす世界（後に変わるが）元々人間だったミュウのサイコ。そして起きた場所がポケモンだけが暮らす世界。そこでギルドに入り、色々な所を冒険してたが、１６話から新マップへ変わった。しかも着いた場所は何も無い所。さらにその世界ではある危機が迫っていた。という話し（え

プロローグ（前書き）

プロローグです。ではどうぞ！

プロローグ

???「今日まで学校か…」

と1人の人間が呟いていた。そいつの名はサイコ。プロローグではポケモンになる前の話しを

サイコ「じゃあ行ってきまーす」

サイコママ「行ってらっしゃい。今日も頑張ってくるのよ」

と言われたので適当に「分かってるって」と言ってきた

まあ出発して少ししてあることを思いだした

サイコ「そういえば最近この辺で行方不明者が多数でたって話しを聞いたな。不思議だよね」

そう、この頃原因不明で急に居なくなるという事件が多数起こっていた。サイコはそのことを話していた。自分も行方不明になるとは知らずに…

サイコ「にしても速く帰ってゲームがしたいな」

まだ朝なのにゲームなどと言っていた。それはともかく学校に着いた

1時間目　国語

サイコ「1時間目は国語かぁ」

サイコは国語が苦手なのである

先生「はい、じゃあこの部分をサイコくんが読んでください」

これを聞いた瞬間「え～」と思ったがこの先生は学校1怖い先生として知られていたので、仕方なく読むことにした

サイコ「いろはにほへと…」

それから45分…

サイコ「終わった…」

そして放課後。帰ろうとした時

生徒1「おーい！今から遊びに行かないか？」

サイコ「今日は家でゲームがやりたいからいい」

と断って家に向かって校舎を出た

サイコ「この頃誰かに見られてるような気がする…」

そして家に着いた

サイコ「はぁ〜、疲れた。さてゲームゲーム♪」

そう言ってゲームし始めた

サイコ「今日はポケモン不思議のダンジョン空の探検隊をしよう」

ポケモン不思議のダンジョン…それは大人気ゲーム、ポケットモンスターと不思議のダンジョンを合わせたゲームだ

そしてゲームをし始めて5時間。外を見るともう夜になっていた

サイコ「やばっ！じゃあお休み！」

そう言って寝た

プロローグ（後書き）

さてプロローグどうでしたか？ちょっと自身ありません
それでは！

第1話　不思議な夢（前書き）

はい！こんなｋｓ（カス）小説の連載がスタートしました！！

サイコ「イェイ！」

このときはサイコはまだ人間です（プロローグの時もそうでしたが）

サイコ「みんな知っていると思うよ」

それでは、第1話！

サイコ「いくよ！」

第1話　不思議な夢

今日は休みの日

サイコ「まぁテレビでも見よう」

といってテレビをつけた

そして一時して…

サイコのママ「サイコ～ご飯よ～」

サイコ「は～い♪（ご飯だ！いかないと）」

そう言ってご機嫌で食卓へ

サイコ「うぁあああああ♪ステ～～～～～～～～キだぁぁぁあああああああああああああああああああああああああああああああああっ！！」

サイコママ「うるさいよ！！！！！！！！」

サイコ「はい←」

どうやらステーキのようだ。サイコはステーキが大好物でステーキに目がないのだ

サイコ「いただきま～す！」

ガツガツムシャムシャガツガツムシャムシャガツガツムシャムシャ
ガツガツムシャムシャガツガツムシャムシャガツガツムシャムシャ
ガツガツムシャムシャガツガツムシャムシャガツガツムシャムシャ
ガツガツムシャムシャガツガツムシャムシャガツガツｗｗ

サイコ「はぁ馬買ったｗ（美味かった）ごちそうさま。なんか食べたら眠くなった…」

そしてサイコは自分の部屋の布団に入った

サイコ「おやすみ…………………」

夢の中

サイコ「ここは？夢の中か？」

すると向こうのほうに光があった！そのほうへ行くと看板があった

サイコ「えっと…「ここから先はポケダンの世界！入るべからず！！」か…どうせ夢の中だしだいじょうぶ！」

この時、サイコの後ろに黒いポケモンがいた。しかしその事にサイコは知らない…

そしてサイコは光の向こうへと飛び込んだ

サイコ「それ！！……うわぁあああああああああああああああ！！」

そしてその朝…

サイコ「ふぁ～。よく寝た……。にしても今日の夢は変だったなぁ。けど今日も休みだしまた寝るかな…」

そういってサイコはまた寝た。すでにポケダンの世界に来ていると
は知らずに…

３０分後……

？？？「君！起きて！！」

という声がしたのでビックリしてサイコは起きた

サイコ「おはよう…って！」

サイコは驚いた

サイコ「ポケモンがしゃべってる！？」

？？？「はぁ？頭いかれてるの？普通にしゃべれるじゃん！それに君も同じポケモンじゃないか！」

サイコ「へ？」

サイコは体をよく見た…そしたらなんとミュウになっていることに気付いた！

サイコ「ポケモンになってるじゃないかぁああああああああああああああああああああああああああああああああああ」

ツタン「そういえば自己紹介がおくれたね！僕はツタージャのツタン。よろしく！君は？」

サイコ「（まぁいいや。自己紹介しとくかな！）僕はサイコ！元人間です」

ツタン「元人間だとぉおお！！！」

サイコ「そんなに驚かなくても…（泣目）」

ツタン「あ！ゴメン！」

ツタンは慌てて謝った

サイコ「まぁいいけど…。でも起こしてくれてありがとう！」

ツタン「なぜ今頃（汗）」

サイコ「じゃあ僕はちょっとこのへんを見てくるよ。」

ツタン「分かった。じゃあ見終わったらここから北にあるプクリンのギルドに来るといいよ！」

サイコ「ありがとう！じゃばいば～い！」

こうしてちょっと見て回ることにした

第1話　不思議な夢（後書き）

サイコ「ポケモンになった～～～～」

いやポケダンってそう言う話だから！

サイコ「え、そうなの！？」

うん、そーなの。

そしてこんなｋｓな小説ですが以後よろしくお願いします

第2話　ポケモンになって初めてのバトル（前書き）

今回は、サイコがバトルを挑まれます！その相手とは！？

サイコ「えっ！」

それでは第2話いってみよう！

サイコ「勝ってやる！」

第2話　ポケモンになって初めてのバトル

サイコ「おっ！洞窟がある。入ってみよ～っと♪」

ポケモンになって嬉しいのかテンションが高い

サイコ「気味悪そうだな」

サイコは洞窟に入っていった

海岸の洞窟Ｂ１Ｆ

サイコ「思っていたとおり気味悪い…」

そして少し進んだらカラナクシが襲いかかってきた！

サイコ「わわわわわ！どうしよう。あ！そうか！技をだせばいいんだ！くらえ！はたく！」

サイコは、はたくを繰り出した。ボカ！カラナクシに命中！しかしあまり効いてないようだ！

サイコ「どんだけ、僕のＬｖ低いんだよぉおおおおお！」

こんどはカラナクシのみずてっぽうがきた！その技はサイコに命中！

サイコ「うっ！」

バタ！

Ｌｖが低いせいか水鉄砲一発で倒れてしまった

気がつくとサイコは洞窟の外にいた

サイコ「あれ？どうしてここにいるんだ？」

どうして洞窟の外にいるか分からないようだ

サイコ「たしか……っ！痛みが…」

そして痛みがきたその時

サイコ「なんだこれ？」

なんか見つけたようだ。それは変な形をした鍵だった

サイコ「なんだろう？へんなカギ。でも…それにしても……暇い！そうだ！ツタンが言ってたギルドにいこう！」

こうしてへんなカギも拾いギルドにむかうことにした

第2話　ポケモンになって初めてのバトル（後書き）

サイコ「なんか…短い！」

短くてスミマセン！

サイコ「なんか素直だね…」

第3話　ギルドに入門（前書き）

今回はギルドに入門します

サイコ「えっ！入るの！？」

もちろんさぁ

サイコ「このさきどうなるのやら（汗）」

それでは第3話いってみよ～

サイコ「はぁ」

第3話　ギルドに入門

サイコが歩いて3分？？？（ちなみに飛び方を知らない）

サイコ「ここかぁ。でも門がしまってる…。それに地面にある網目(あみめ)はなんだろう？」

と考えていると…

？？？「どうしたでゲスか？」

ゲスがくちぐせのビッパが来た

サイコ「入りたいけど…入り方がわからなくて…」

ビッパ「そうだったゲスか…こうするんでゲスよ」

ビッパが網目に乗ると…

？？？「ポケモン発見！ポケモン発見！誰の足型？誰の足型？足型はビッパ！足型はビッパ！」

誰かの声がした。それにに続けて…

？？？2「よし！いいぞ！」

ゴゴゴゴゴガタン！と音をたてながら門が開いた！

ビッパ「入っていいでゲスよ～」

サイコ「はぁ～ビックリした～」

サイコは門が開く音にビックリしたようだ
そして中に入るとツタンが待っていた。

ツタン「やっぱり来てくれた！」

サイコ「来たよ！にしてもなんか忘れてるよ～な…」

ツタン「たとえば、ダンジョンに行ったとか」

サイコ「あ～それそれ……っ！」

バタ！

サイコが急に倒れた

ツタン「だだだ大丈夫！？そそんな急に倒れても（汗）」

ツタンはサイコを弟子部屋に運んだ

次の朝

サイコ「っ！！ここは…ギルド？だよね。たしか…ツタンと話してた時に倒れて…運ばれた、のかな？とりあえず報告に行こう！」

そうしてしばらく歩くと…誰かが話しをしていたのでこっそり聞いた

？？？「ーであのサイコとやらは起きたかい？」

ツタン「いいえ。今のところ…」

話しているのは…。ツタンと…誰か

？？？「これからサイコ君はどうするのか？」

ツタン「さぁ？」

？？？「そうか…話しは以上だ！早く戻って看病してやりなさい」

ツタン「はい！」

どうやら話しは終わったようだ

サイコ「まぁこのまま隠れててもしょうがないし部屋に戻るか！」

そして部屋に戻って少ししたらツタンが来た。

ツタン「サイコ君起きてたんだ」

サイコ「うん！おかげでだいぶよくなったし」

まだ頭が痛むが心配をかけたくなくて嘘をついた

ツタン「そういえばこれからどうするの？」

そういえばそういうことは全然考えていなかった

サイコ「ん～？そうだね…」

ツタン「じゃあ探検隊でもやったら？」

サイコ「うん！そうする！」

ツタン「あ！でも…僕もすでにチーム組んでし…」

サイコ「大丈夫！1匹でもいいよ！」

1匹は寂しいが、しょうがないと思って返事した

ツタン「そう…ならいいや！じゃあ親方の所へ手続きしにいこう！」

サイコ「そうだね！」

そしてツタンに連れられてドアの前まで来て…

ドアをツタンがコンコン！とノックして

ツタン「ツタンです。サイコが弟子入りするそうです！それではしつれいします。」

そしてドアを開けるとプクリンが立っていた。（後ろ向きに）

そしてプクリンが急に振り向き

プクリン「やあ♪きみが例のサイコ君だね～♪」

サイコ「はい…」

プクリン「弟子入りするの？じゃあチーム名は何にするの？」

サイコ「そういえば…ん～？（無双転生でいいか！うん！）決まりました！無双転生で！」

プクリン「わかった♪……登録完了したよ♪それと君はソロだからちょっと特別な探検キットをあげる♪」

サイコは探検キットＳＰを貰った

サイコ「えーっと中にはトレジャーバッグとと探検バッチがはいってた！しかもトレジャーバッグの中には復活の種×５とピンクリボンとオレンの実×１０が入ってる！ありがとう親方！」

こうして、サイコは探検隊を始めたのであった

第３話　ギルドに入門（後書き）

無双転生ってｗｗｗｗｗｗ

おい！

んじゃ次回もよろしく！

第４話　初めての依頼（前書き）

ミュウ＆ジンオウガ「今回はサイコが依頼に挑戦します♪」

サイコ「大丈夫かな…（汗だく）」

ミュウ＆ジンオウガ「視聴者さん前回はすみません。間違いが大量に（ＤＳＩブラウザーで書いてるので…）なので間違いがあったときは指摘してください。おねがいします（土下座）」

サイコ「そこまでしなくても…」

ミュウ＆ジンオウガ「ではきをとりなおして、第４話スタート！」

サイコ「いくぜ！」

第４話　初めての依頼

次の朝

？？？？「おきろぉおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお！！！」

サイコ「っう！！頭がきんきんする…」

ドゴーム「俺はドゴーム！！起きるのが遅い弟子の起こし役でもある！！早くしないと朝礼が始まるぞぉおおおお！！！」

サイコ「わかった…←」

そう言ってすぐに朝礼に行った

ペラップ「遅い！！！ったく！！」

サイコ「すみません←」

ペラップ「ったく（2回目）さて親方！全員集まりましたよ！！」

プクリン「………え！…もう…もうちょっと寝たかったな♪」

ドゴーム「えっ！ヒソヒソ（寝てたの）」

どうやら寝てたようだ

プクリン「今日もはりきっていくよーー！」

全員「おおーーーーー！」

そういってみんな散らばった

しかしサイコはなにしていいかわからずあたふたしていた

ペラップ「サイコ！そこで何あたふたしてるんだい！こっちへきなさい！」

サイコはやることもないので一応行くことにした

ペラップ「今日は依頼をこなしてもらうよ♪んー？そうだ！おーい！ツタンーーーー！」

数秒後

ツタン「はい？なんでしょうか？」
ペラップ「サイコ君の依頼を選んでやって！」
ツタン「はい！わかりました！サイコ君。こっちに来て！」

と言われたのでついて行くと…

ツタン「これは依頼の掲示板。えーっと…よし！これがいい！「おねがいします。私の真珠が盗まれました。そして湿った岩場に捨てられたらしいのです。なので取りに行こうと思ったのですが敵が強くて行けません。なのでかわりにとりにいってください。よろしくお願いします。ｂｙバネブー」んじゃ頑張ってね。」
サイコ「ありがとう。ではいってきます」

そう言って出ていき飛んで2分…

湿った岩場入り口

サイコ「依頼によるとここのＢ７Ｆにあるようだね。ではでは出発！」

湿った岩場Ｂ１Ｆ

サイコ「階段を探せばいいんだよね。」

すると……ビチャーンと音を立てて出てきたのはカラナクシだ！
サイコ「わわわわっ！あ！ポケモンなんだから技を出せばいいんだ！くらえ！はたく！！」
ボカ！見事に命中！そしてカラナクシは倒れた
サイコ「やったー！でも海岸の洞窟ではあんまり効いてなかったのに…」
そう考えながらとうとうＢ７Ｆまで来た
サイコ「ここが１番奥か…それにしても真珠はどこにあるのだろう」
と探していると…
サイコ「あった！！これかぁ。綺麗だなぁ。さてもって帰るか。」
サイコは急いで湿った岩場を出たそしてギルドに向かった。そしたらバネブーが待っていた
バネブー「これですこれです。ありがとうございます。これおれいの２５００ポケです。」
サイコ「わぁこんなに！いいの？」
バネブー「いいですよ！真珠にはかえられませんから。」
と言って嬉しそうに帰っていった
サイコ「わーい。いきなり大金持ちだー」
ペラップ「あ♪忘れていたが君が貰えるのはこれだけだ」

と言ってポケを取り上げて渡してくれたのはたった１００ポケだった

サイコ「えーこれだけ！？」

ペラップ「我慢しなさい！あんたが探検隊を出来るのはギルドがあってこそなのだ！」

サイコ「はーい…←」

と肩を落としていると

チリーン「チリンチリーン（ベルの音）ご飯の用意が出来ました。」

サイコ「やったーご飯ご飯ー♪」

そして急いで食堂にむかった

ペラップ「せーの！」

全員「頂きまーす！」

省略ＯＴＺ

サイコ「あーおいしかった！」

と言って弟子部屋に行き

サイコ「さて！日記も書いたし寝よう…お休み…」

こうして眠りについた

第４話　初めての依頼（後書き）

ミュウ＆ジンオウガ「はぁつかれたそれと一部手抜きでＯＴＺｏｒＺ」

サイコ「もー」

ミュウ＆ジンオウガ「次回から前書きｏｒ後書きにはほかの登場ポケモンもだします！お楽しみに～」

第5話　時空の叫び　前編（前書き）

ミュウ&ジンオウガ「ってか時空の叫びってなんだっけ？」

サイコ「おい！攻略本を持ってるんだからそれを使え！」

ミュウ&ジンオウガ「あっ！そうか！」

サイコ「てかそろそろ始めろよ！」

ミュウ&ジンオウガ「はいはい（汗）ではでは第5話前編へゴー」

サイコ「スリーp…あっ！言ってしまった！（汗）」

第5話　時空の叫び　前編

次の朝（おなじパターンw）

ドゴーム「サイコォオオオオオオオオオ！起きr……

……

……いない！？」

ドゴームはサイコがいないことに気づき急いでプクリンの所へ言った

ドゴーム「親方！サイコが居ません！！」

プクリン「あ♪サイコならもう依頼を受けて♪もう出発したよ♪たしかギルドに取られたっていっぱい依頼をしたら稼げるとか言って出ていったよ♪でもトレジャータウンを紹介していないからそのうち傷だらけになって帰ってくるよ♪」

ドゴーム「親方……それ……大丈夫なんですか？……」

プクリン「全然♪（笑）。でもねある店を紹介するからいいの♪」

ドゴーム「ある店？どんな店ですか？」

プクリン「ひ♪み♪つ♪♪」

ドゴーム「こすか～（せこい）」

プクリン「さっ♪もうすぐ朝礼を始めるよ♪」

というわけで朝礼

ペラップ「サイコが居ません！」

プクリン「あ♪それなら…」

プクリンはいままでのことをペラップに話した

ペラップ「馬鹿だ…（ため息）」
プクリン「それじゃあ今日もはりきっていくよ～」
全員「おおーーーーーーーーーーー」
と言ってみんな散らばった
とそのとき
チリーン「親方！サイコさんが傷だらけになって帰ってきました。」
プクリン「いまいくよ」
プクリンはサイコの所には行ったがなぜか走らなかった
プクリン「おまたせ～♪」
チリーン「親方おそいです」
プクリン「ごめ～ん♪（へんなお面を目の所にあてて）」
チリーン「いきなりで悪いんですが。このギルド…回復のスペシャリストがいません！（親方なにへんな事やってるのか？）」
プクリン「そう言うと思った♪。入ってきていいよ♪！」
すると2匹のポケモンが来た。1匹目はラッキー。もう1匹はタブンネ
タブネス「私タブンネのタブネス」
ラクラ「私はラッキーのラクラです。みなさんどうぞよろしくお願いします」
プクリン「こっちがリーダーのタブネスでこっちがラクラ。僕の同盟ギルドから来たよ♪」
全員が疑問に思う

チリーン「え？同盟ギルド…ですか？」
プクリン「みんな覚えてないの？昔このギルドを卒業した一稀（かずき）とコザトだよ！」
キマワリ「ああ！あの元人間と臆病な子ですわね。」
ツタン「えっ！元人間！？」
キマワリ「そうですわ」
ツタン「サイコも元人間だよ」
全員「…………………………………………………ぇえええええええええええええええええええええええええええええ！！！」
ツタン「そんなことよりも、はやくサイコの回復をしてよ。」
タブネス？ラクラ「ＯＫ！いくよ？せーの！ダブルヒーリング！！」

するとサイコの傷がみるみる消えていく

サイコ「うっ！…ここは？」
チリーン「気づきましたね？ここはギルドですよ」
サイコ「どうしてギルドに………」
チリーン「あなたがダンジョンで倒れてる所を他の探検隊が助けてくれたのよ。しかもこのギルドの同盟ギルド所属の探検隊だったからあなたがここのギルド所属っていうのがすぐにわかったよ。よかったわね」
サイコ「ほんとに…よかったよ…助けてくれなかったら、どうなってたか…」
プクリン「サイコ君。僕と探検にいこうよ♪」
サイコ「またやられるだけだよ………」
ツタン「（完全にやる気無くしてる）」
プクリン「大丈夫♪僕は強いから♪」
サイコ「ならいいや」

プクリン「ではでは出発～♪」
サイコ「おおーー←（不安だ…）」
というわけで嘆きの森（なげきのもり）に来た
嘆きの森１Ｆ

サイコ「ううっもうあんな思いしたくない」
プクリン「大丈夫♪僕が守ってあげるから」
すると
バサン！！
と音を立ててホイーガが出てきた
サイコ「たぁーーー！！気合いパンチ！」
するとホイーガは５００ｍぐらいとんでいった
サイコ「凄い（。ｏ。）」
というわけで順調にすすみもう森の奥深くまできた。すると１つの店があった

第5話　時空の叫び　前編（後書き）

ミュウ&ジンオウガ「やっとおわった…これ書くのに丸1日かかった」

サイコ「どんだけぇ～」

ミュウ&ジンオウガ「んじゃ疲れたからノシ」

第６話　時空の叫び　中編（前書き）

ミュウ＆ジンオウガ「今回はあるゲストが来ていますぅ。一稀親方です。どうぞっ！」

一稀「前回の話しに出てきた同盟ギルド、親方の一稀だ！よろしくっ！」

ミュウ＆ジンオウガ「では第６話」

サイコ「どうぞっ！」

一稀「まてぇえええええええええええええええ、勝手に話しを進めるなぁあああああああああああああ」

第6話　時空の叫び　中編

???「おお！プクリンじゃん！ひっさし（久しぶり）」
プクリン「久しぶり♪それより頼みがあるんだ♪」
ライク「わかってるって。とりま自己紹介をしよう。俺はライク。見てのとおりストライクだ！君は？」
サイコ「僕はサイコです。元人間です」

するとライクは驚きとまどっている

ライク「ええええっ！元人ｇｅｎｎｎｎｎｎ！？」
サイコ「驚きすぎ！しかも字がおかしい」
プクリン「それはともかく、あれはあれね♪」
サイコ「（あれはあれ？そんなんでわかるか？）」

と思っていたがまさかのまさか

ライク「わかってるで。あれだろ？」

サイコ「（わかったの！？？）」

と思ってはいたが多分なかがいいだろうと思って口にはださなかった

ライク「んじゃ待ってろよ！明日の朝までにはできるからよ」

と言って行ってしまった

それから1時間後……

ちゅどーーーーーん！どかーーーーん！
なにかの爆発音がした！！

プクリン「まただ♪飽きた←」
サイコ「親方！心配しなくていいんですか？」
プクリン「いいの♪いつもの事だから♪」
サイコ（親方に言っても天然すぎて何も通じない…とにかく行ってみよう」

そして行ってみると黒い煙で見えないがこっちはライクであっているんだが、もう1匹いることに気づいた。

サイコ「ゴホッゴホッ（んん？あれは人間のころに見た事があるような……）ああーー！わかった！でもポケモンじゃないし…」

と考えていると

？？？？「また、失敗してしまいました。ゲホッゲホッ」
サイコ「（やっぱり！でもどうして？）」
？？？？「あなたサイコさんですね。失敗してすみませんです」

サイコ「大丈夫です。はい」

答えは誰かはわかっているが一応聞いてみた

サイコ「君は誰ですか？」
まめっち「あ！紹介を遅れました。僕はまめっちです。僕は見てのとおりポケモンではありません。じつは……

省略

サイコ「そういうことか。」

ミュウ&ジンオウガ「かわりに僕が説明します。まめっちは実験が好きで地球に行きたくて。そういう装置を作り、起動しました。しかし着いた所はポケダンの世界だった……と言うわけ。以上！」

サイコ「作者いつの間に……」
まめっち「もう夜だし寝ていいよ」
サイコ「ありがとう。お休み」
まめっち「お休み」

次の朝

プクリン「たぁーーーーーー！！！サイコ君起きて！！！！」
サイコ「うう！ドゴームより声がでかい…」

バタ
あまりに声がでかいので気絶してしまった

プクリン「てへっ♪」

それから1時間後

サイコ「ううううう！！気絶していたのか…」

とそのとき

ライク「できたＺＥ」
サイコ「できたんだ！行ってみよう」

そして行ってみると

サイコ「すごい！武具だ！」

テーブルに置いてあるのは双剣？鉄の兜？鉄の鎧が置いてある。しかし重すぎないだろうか？

サイコ「よいしょ。重い（汗）」

見事に的中。しかしプクリンは

プクリン「大丈夫♪大丈夫♪そのうち慣れるから♪」
サイコ「そう言えばこの双剣の名前は？」
ライク「もちろん鉄の双剣」
サイコ「だよね。見る限り鉄にしか見えないもんね」
プクリン「それじゃあ行かないと。バイバーイ♪」
ライク「バーイ」

こうしてライクとまめっちにわかれを告げギルドにむかうのであった

第6話　時空の叫び　中編（後書き）

サイコ「親方の天然にもほどがあるよ」

一稀「んだな！」

ミュウ&ジンオウガ「それでは後編もよろ！」

一稀「（また話しをそらされた…）」

第7話　時空の叫び　後編（前書き）

サイコ「思ったけど前編と中編って…時空の叫び……関係なくない？」

一稀「たしかに…」

ミュウ&ジンオウガ「すみません。初心者なもんで…」

サイコ「では、第7話どうぞっ！」

ミュウ&ジンオウガ「今回は僕も登場します。ジンオウガとして」

サイコ「えええええええええええええええ」

第7話　時空の叫び　後編

1時間後…

重い武具のせいで行くときの2倍もの時間がかかった。そしてやっとついた

サイコ「はぁ…はぁ……やっと着いた…重いせいで飛ぶことも出来なかった……」

プクリン「ドンマイ♪（笑）これからこれを着こなせるように、地獄のような特訓をするからね～」

サイコ「うそぉおおおお（泣）」

プクリン「あ♪そういえば、トレジャータウンを紹介してなかったね。今から紹介するよ」

サイコ「本当？ありがとう」

プクリン「でも、そのあとは地獄の特訓ね♪」

サイコ「わかってるって（うわ～ぜったいしぬ～～」

プクリン「ではでは出発～～♪」

それから3分後

プクリン「ついた～♪ここがトレジャータウンだよ♪」

サイコ「ほほ～～結構広い」

プクリン「では、まず一番近くにあるこの店はヨマワル銀行って言ってP（ポケ）を預けたり引き出したりできるところなんだ。次僕たちの左側にあるこの建物はガラガラ道場って言って鍛える所なんだ♪次は

あの黄色いたてもの、あれはエレキテル…じゃなくてエレキブル連結店で技を連結する事が出来るんだけど…今日は居ないみたいだね。次！あのピンクい建物はお世話屋ラッキーって言ってなんか出来る所。次は向こうのエリアを紹介するよ♪」
サイコ「何があるんだろう」

というわけで隣のエリアに行った

プクリン「ここにはついこの前できた新しい施設があるんだ、そこも紹介するよ。まず目の前にあるあの２人組が居るあの見せはカクレオン商店とカクレオン専門店でいろいろ売ってあるよ。次、あのガルーダ倉庫と言って道具を預けたり引き出したりできるよ、次は新しくできたトレジャー農場、いろいろな事が出来るよ♪あのガルーラ倉庫の隣にある地下通路を１００ｍぐらい進むと行けるよ♪では帰ろう♪♪」
サイコ「はぁ～って、ん？あれなんだろう」
プクリン「どうしたの？」
サイコ「あそこに倒木があるんだけど見てもいい？」
プクリン「あ、見てもいいよ」

というわけで見に行った

サイコ「わぁ～すごい！触ったらギシギシいうのかな？」

サイコのこの好奇心はどこから来るのだろうか？

サイコ「触ってみよう」

触ってみた、しかしその瞬間！

サイコ「（なんだ！め、めまいか？たぶん疲れたのだろう）」

そしたら頭の中で閃光が走り、ある映像が見えた

サイコ「（なんだこれは？何かの怪獣にトレジャータウンが襲われている！？）」

しかし急に映像が消えた

サイコ「なんだったんだろう？よし親方に聞いてみよう」

というわけで急いでプクリンの所に戻った

サイコ「ねぇ親方！」

プクリン「なぁ～に～♪？」

サイコ「昔このトレジャータウンがなんか怪物に襲われた事ある？」

プクリン「うんあるよ、実は……」

プクリンの話しによると丁度1年位前にジンオウガ（よーするに僕ですw）という別世界から来た怪物がトレジャータウンに来ていきなりここをくれと言い出して住人はそれを断り、そしたらジンオウガというやつが家や木、店を壊し始めて最後に1年後にまたくると言ってどこかに行ってしまった

プクリン「というわけ、わかった？」

サイコ「（。ω。）話し長い（。ω。）」

プクリン「そして来るのが明日♪」

サイコ「……

……（。―。）はぁあああああああああああああああああああああああああ！！？」
プクリン「ギルドは全員参加だからね♪」
サイコ「オワタ（＾q＾）」
プクリン「それとジンオウガは部下ををもってるらしいから注意してね、一稀とコザトとそのギルドの仲間たちもくるからね♪」
サイコ「てかなんで僕に教えなかったの？」
プクリン「ちょい気分で♪」
サイコ「ふざけるなぁあ、」
プクリン「まだお昼ごろだし特訓をしよう」
サイコ「アイアイサー／（＾―＾）」

というわけでトレジャータウン案内を終わり、地獄の猛特訓を始めることにした

第7話　時空の叫び　後編（後書き）

やっと出来ました！

サイコ「うへぇ～」

さて次回は地獄の猛特訓編です

サイコ「うへぇ～×2」

ではまた次回！

第8話　サイコの地獄の大特訓その1（前書き）

サイコ「久しぶりだよな…」

一時の間やる気無くしてたからね（汗）

サイコ「ではでは、第8話の始まり始まり～！」

そう言えばツタンが居ない…

第8話　サイコの地獄の大特訓その1

プクリン「…というスケジュールです♪」

サイコ「どんだけぇ～」

というのもそれは5分前の話し……

プクリン「今から地獄の大特訓のスケジュールを発表します。まず13：00からガラガラ道場で電気の間を10回して13：30からトレジャー農場の中を100周、14：00からはギルドXストリームと練習試合をして16：00からはXストリームのメンバーと一緒に依頼をこなす、というスケジュールです♪」

というわけ

サイコ「質問！Xストリームってなんですか？」

プクリン「同盟ギルドだよ、あの一稀とコザトの居るあのギルド」

サイコ「もう1つ、鎧等は着たまんまですか？」

プクリン「もちろんさぁ」

サイコ「重いだろ…」

プクリン「では出発～♪」

ビッパ「行ってらっしっしゃいでゲス」

プクリン「あれ？みんなも行くんだよ♪」

キマワリ？ビッパ？ドゴーム？ディグダ？ダグトリオ？チリーン？ツタン？タブネス？ラクラ「ええええええええええええええええええええええええええええ～～～～～！！！！！！！！！」

グレッグル「チッ」

ペラップ「みんな行ってらっしゃーい（汗）」

プクリン「わかってるとは思うけどペラップもだよ♪」

ペラップ「ハァ～、わかってますって（やっぱりこうなるのか…）」

プクリン「では出発！」

みんな「おおーーーー！！」

１３：００

プクリン「みんなぁ～電気の間に入れ～♪」

ダダダダダダ

みんなが１斉にガラガラ道場、電気の間に入りだした

まず見ていくのはビッパ

電気の間　Ｂ１Ｆ

ビッパ「電気は少々苦手でゲス…」

タイプは普通のダメージなんだけどね
するといきなり

シママ「てめぇ！ここを通りたければ俺と勝負しろ！」

ビッパ「望む所でゲス」

シママ「電気ショック」

ビッパ「急にしないででゲスぅ～ギャーーーーーーーーーでゲス」

バタ！

ビッパはなんとB1Fで倒れた…

続いてキマワリ

電気の間　B1F

キマワリ「電気なんてキャーーーーですわ」

何言ってるか理解不能
と言ってるあいだに

ピカチュウ「君…うるさいよ！」

キマワリ「花びらの舞いですわ」

ピカチュウ「うぎゃあああああああああああ！！」

バタ！

キマワリ「勝ちましたですわ。にしてもビッパちゃんは大丈夫でしょうか…」

すでに殺られてます（笑）

とキマワリは順調に進んで行き
ついに

電気の間　B5F（BOSS）

キマワリ「何か広い場所に着きましたわ」

すると

ライボルト「ここまで来たか…相手をしてやろう！かかってこい！」

キマワリ「葉っぱカッターですわ！」

ライボルト「ひょいっと、くらえ！拡雷弾！！」

なんと電気をまとった小爆弾が襲い掛かってきた！

キマワリ「なんですわ、きゃあああああああ！！」

バタ！

キマワリは最後の最後でライボルトのオリ技でKO負け

次は、ダグトリオ?ディグダです

電気の間　Ｂ１Ｆ

ダグトリオ「簡単簡単！」

ディグダ「どうして？」

ダグトリオ「それは…俺達は地面タイプだからだ」

ディグダ「そうなんだ、すご～い」

すると

パチリス「君達～、何しに来たの？」

ダグトリオ「ここで修行をしろと親方に言われたから来たのだ」

パチリス「なら私が相手になってあ?げ?る」

ディグダ「いくぞ！地…」

パチリス「食らいな！体当たり＋２０」

どんだけカテキンを飲んでるのやら…、しかも不意に

ディグダ「うわぁあああああああああああ！！！」

バタ！

ディグダ、Ｂ１Ｆで終了～！

ダグトリオ「お前！不意打ちとは卑怯だぞ」

パチリス「勝てばいいんだよ、勝てば（黒）」

ダグトリオ「許さん！じわｒ…」

パチリス「手留弾！」

それが見事に命中

ダグトリオ「うわぁあああああああああああああ！！」

バタ

ダグトリオ？ディグダ共に倒れた（笑）

どうやらガラガラ道場は結構強いみたい

続いてグレッグル

電気の間　Ｂ１Ｆ

グレッグル「ケッ」

なんと電気の間のポケモン達はグレッグルが怖かったのか、１匹出らずにクリア

グレッグル　電気の間クリア！

続いてチーム、ヒールとチリーンと行きたい所だが回復役として残

る事になった

第８話　サイコの地獄の大特訓その１（後書き）

実はそのに分けたのは理由があります。僕の気力は充分あったので最後まで書くつもりだったんですが途中で入力不可能になってしまいました多分１０００字は超えてるとは思います、でもＰＳＰだと５２０字ぐらい入力するとそれ以上は書けなくなります、何ででしょうか

まぁそれは置いといて次回はプクリン？ペラップ？ツタン？サイコが電気の間に挑みます。

ビッパ「意外と強かったでゲス…」

キマワリ「もう本当キャーーーーーーーーーーーーー！！ですわ」

ドゴーム「そういえばわしは」

ギルドでお留守番（笑）

ドゴーム「でも読者の皆さんには言ってないよな…」

それも次回にっ！

サイコ「お前実は作者に忘れられてたんだぞ…」

ちょ、ちょまっ。

ドゴーム「ハイパーボイス！！」

うわぁあああああああああああああああああああああああああああ

あ！！！！！！！！！！

バタ↑気絶しました（笑）

ツタン「そのままじゃ負けるぞ…」

ジンオウガになれば１００人力だぁああ！！

サイコ「では」

俺の台詞がぁあああ！！

第9話　サイコの地獄の大特訓その2（前書き）

その2でっせ

サイコ「何？その言いかた…」

何となくだＺｅ

ツタン「作者が壊れた！」

何でだよ！！

ツタン「第9話どぞっ！」

また俺（僕）の台詞がぁあああああ

第9話　サイコの地獄の大特訓その2

そいえば言い忘れてましたが、ギルドのみんなが行った電気の間はＬｖ7だったから強く感じたんです。しかしプクリンは親方という事もあってＬｖ１０に行った（ペラップもな）（Ｌｖ順は、最弱→Ｌｖ1→Ｌｖ2→Ｌｖ3→Ｌｖ4→Ｌｖ5→Ｌｖ6→Ｌｖ7→Ｌｖ8→Ｌｖ9→Ｌｖ10→強Ｌｖ1→強Ｌｖ2→強Ｌｖ3→強Ｌｖ4→強Ｌｖ5→強Ｌｖ6→強Ｌｖ7→強Ｌｖ8→強Ｌｖ9→強Ｌｖ10→最強、という順番です、最強の上もある）

電気の間Ｌｖ１０　Ｂ１Ｆ

ペラップ「なんで私も…」

プクリン「気にしない気にしな～い♪」

するとそこへ

チョンチー「あの～…あなた達がプクリンさんと鳥（ペラップ）さんですね」

ペラップ「誰が鳥じゃい」

一応鳥ですが…

プクリン「そのと～り♪」

ペラップ「少しは否定をしてよぉ～（泣）」

チョンチー「放電！」

プクリン「守る！」

プクリンは守るで防いだが…ペラップが……ね……

ペラップ「うぎゃぁあああああああああああああ！！！！！！お…や……か……た……な……んで…私も…守って……くれないんですか……」

バタ

ペラップは放電の威力により倒れた（笑）

プクリン「忘れてた♪てへっ♪♪」

これがガラガラ道場の外だったら死んでるぞ…絶対

プクリン「たぁあああ！！」

プクリンは通常攻撃で攻撃（つまりＡボタン）

チョンチー「うっ！」

プクリン「とどめだ！メラゾーマ！！」

大きな火の玉がチョンチーに襲いかかる

チョンチー「うわぁあああああ！！！！」

バタ

見るとチョンチーは黒焦げになって倒れていた

プクリン「殺り過ぎちゃった♪」

てか普通ポケモンがメラ系出すか？

プクリンは順調に進んで行きついに

電気の間Ｌｖ１０　Ｂ５Ｆ（ＢＯＳＳ）

ライチュウ「よく来たな！」

プクリン「まぁ修行だしね。いくよ♪」

ライチュウ「おう！エレキボール！！」

プクリン「守る！」

プクリンは守るでエレキボールを防いだがライチュウは守るをするのを分かってたように

ライチュウ「そう来ると思ったぜ！フェイント！！」

フェイントは守るを破りプクリンに直撃

プクリン「ぐっ！だがこのために新しい技を編み出してたんだ♪くらえ、大地の怒り！！」

地震より凄い揺れがライチュウに

ライチュウ「ぐっ！うぁあああああああ！！！」

バタ！

プクリンはなんとかクリアした

電気の間Ｌｖ１０クリア

サイコは鎧等を装備してるからＬｖ３で（鎧無しだとＬｖ１）ツタンはその付き添い役で同じ

電気の間Ｌｖ３　Ｂ１Ｆ

サイコは真剣な顔をしてるがツタンが暇そうにしている

サイコ「やるぞ～出てこ～い！」

すると

ピチュー？プラスル？マイナン「うるさいな～も～」

サイコ「ねぇねぇ！戦おうよ！」

ピチュー「の」

プラスル「ぞ」

マイナン「む」

ピチュー？プラスル？マイナン「ところだ」

サイコ？ツタン「何その言い方…」

ピチュー「いくぞ！雷巻」

電気の竜巻がサイコ達に襲いかかって来た

サイコ「そう言えば鉄って電気との相性×じゃん。だって…」

鉄ってほとんど抵抗がないですからね

抵抗がほとんどない＝電気を通す

サイコ「ヤ…バ…い…ね…」

ツタン「別に、僕草タイプだし」

サイコ「オリ技があったらな……そうだ！」

サイコは自分の持っている双剣を地面に刺し、こう唱えた

サイコ「双剣シールド」

すると刺した双剣と双剣の間からとても分厚いシールドが出現して

雷巻を受け止めた

ドカーーーーン！！

そして爆発！

電巻は消えたものの双剣シールドはまだ残っている

サイコ「やった〜、ん？」

実は受け止めたのではなく跳ね返してるってことを、証拠に

ピチュー「な…ぜ…跳ね返した……ガク…」

そういって気絶しました

サイコ「………すげぇ！」

そして順調に進み最後のＢＯＳＳも

　電気の間Ｌｖ３　Ｂ５Ｆ（ＢＯＳＳ）

ツタン「ツルのムチ！」

バチュル「ぐはぁ！」

バタ！

１発で終了

　電気の間Ｌｖ３クリア

一方、ギルドでは

ドゴーム「なんでわしだけ留守番なんだ！！！！！！！！！！！」

といってる間に

第9話　サイコの地獄の大特訓その2（後書き）

微妙な終わり方だな

って誰も居ない……

スタッフ「今特訓中です」

あっそう、では

第１０話　サイコの地獄の大特訓その３（前書き）

やっと第１０話までいきました！

サイコ「ハードル低っ！（汗）」

あ！それとミュウ＆ジンオウガからミュウ＆ツタージャ＆ジンオウガに変更しました！

ツタン「長っ！（汗）」

それでは記念的第１０話どうぞっ！

アラシ「アラシの修行もよろしくぅ～」

おい！（汗）

第１０話　サイコの地獄の大特訓その３

１３：３０

プクリン「それではランニング始め♪」

みんな「おおーーーーーーーーーーーーーーーーー！！！」

といってみんな走りだした、が一匹遅れてるようだ

サイコ「こんな重い物を着たまんま走るとか（汗）」

プクリン「３０分以内に１００周しなければお仕置きだよ♪（黒）」

サイコ「怖っ！（汗）」

ジンオウガ＝作者「こえ～（汗）」

遠くからトレジャー農場を見ているようだ

ジンオウガ「さらにＸストリームの奴らも来るんだから…俺死ぬぞ（汗）」

という不安を抱きながら今度はＸストリームの視察にむかった

ちょっと視点をジンオウガ＝作者の方へ向けてみましょう

ジンオウガ「確か…神秘の森の近くにサキシィタウンってとこにＸストリームがあるはず…」

しばらく歩くと

ジンオウガ「お！サキシィタウンあった！たしか今の時間はガラガラ道場に行ってるはず…」

とにかく行ってみた

ジンオウガ「お！やってるやってる！ってん？あれ…ポケモンじゃないぞ」←お前もだろ！

スラリン「スラ？ストライク！」

スラリンとよばれるスライムはスラ？ストライクとよぶ特技を使った

メタリン「なんの、メラ！」

メタリンとよばれるメタルスライムがメラという呪文を唱えた

さらにその2メートル先には

一稀（かずき）「いくぜ！ダブル魔人斬り」

一稀とよばれるエンペルトが両手に持ってる斧を大きく溜めて振り下ろした。そう、このかたがXストリームの親方の一稀である。一方…

コザト「そうはさせるか！フレイムガード！」

コザトとよばれるリザードンが炎の壁を作り、防いだ。このかたが副親方のコザトである。更にまだまだ居るがネタバレという最大の難点があるため言えません

ジンオウガ「そうそう」

あ！言い忘れてたけどここはガラガラ道場の屋外練習場です

ジンオウガ「おい！作者の俺さえ知らなかったとはどういう事だ！」

さっき思いついたので

スラリン「なんか声がしない？」

メタリン「たしかに、ジンオウガでも見てるんじゃない？例えばあそことか」

メタリンが差した所には偶然ジンオウガが居た

メタリン「って本当にいる！（汗）」

スラリン「わぁお、メタリンって凄い能力を持っていたんだね♪」

メタリン「いやいや、奇跡です（汗）」

だがジンオウガは気づかれてる事に気づいてない

ジンオウガ「なんか、こっちを指差してるような…、まいっか！」

おい！（汗）

ジンオウガ「さて、ギルドに帰るか！」

あれ？ギルドってあるの？もしかして部下ってギルドの弟子って事！？え？いや、何でもありません

まぁサイコ達に戻りまひょ

プクリン「全員ＯＫ♪」

みんな間に合ったようだ

サイコはというと高速移動を使い何とか間に合った

第１０話　サイコの地獄の大特訓その３（後書き）

その何まで続くんだろ…

……ってやっぱ居ない

では！

第１１話　サイコの地獄の大特訓その４（前書き）

こんにちは！今回は魔界の王子と天界の姫の登場キャラクターが出てきます

サイコ「練習試合もするんだよ」

Ｘストリームのこの前登場してなかったキャラも登場します

ツタン「では第１１話スタート」

※最後にお知らせがあります

第１１話　サイコの地獄の大特訓その４

１４：００

プクリン「もうそろそろくるかな？」

Ｘストリーム達を待っていた。すると…

一稀「待たせたな」

プクリン「みんな～♪Ｘストリームのみんなが来たよ♪」

キマワリ「あの…親方、みんなここに居ますよ」

プクリン「てへっ！（チッ！）」

なんかプクリンが怖くなってきている…

プクリン「まずスラリンＶＳキマワリをしよう♪」

スラリン？キマワリ「え～！」

プクリン「んだとおらぁ！！」

スラリン「ひぃー！」

キマワリ「（親方…らしいですわね）」

そういいながらも練習場に立った

プクリン「では、始め！！」

スラリン「（キマワリさんってどう戦うんだろう…）」

キマワリ「花びらの舞！！」

スラリン「（そうか！草タイプか！）リーフシールド！！」

草タイプの攻撃だと分かりリーフシールドを出した

カーン

リーフシールドは花びらの舞を跳ね返した。そしてキマワリに直撃

キマワリ「キャアアアアアアアア！！！」

バタ！

あれ？こんな威力あったっけ？もしかしてリーフシールドって跳ね返すだけじゃなくて威力も上げて跳ね返すてきな？

プクリン「次はメタリンＶＳドゴーム」

ドゴーム「あんなギンギラギンには負けない！！！」

そうとうな気合いを持っているドゴーム

メタリン「ヘッハッハッハ（笑）」

なんとドナ●ド笑い方をしている

プクリン「では、始め！」

とプクリンが言った瞬間

ドゴーム「エターナルボイス！！」

ハイパーボイスよりも大きい音が響き渡る

メタリン「ううっ！これドラクエだとマインド系だね

メタリンがひるんでる間に

ドゴーム「気合いパンチ！！」

ゴーン！

鈍い音が聞こえた

ドゴーム「いっ！いってえええええ！！！！」

しかし

バタ！

メタリン「……」

メタリンは完全に気絶している

ドゴーム「あれ？」

ドラクエのメタル系は防御は高いけどＨＰが非常に少ない

プクリン「じゃあ次は」

一稀「ジーグＶＳサイコだ！」

ジーグ「（悪魔の力でも使うか）」

一稀「では、始め！」

ジーグ「悪魔の剣［つるぎ］！！」

すると持っていたダークランスが１本の黒い剣［つるぎ］に変わった

サイコ「面白くなりそう」

ジーグ「暗黒斬り！！」

さらに黒く帯びた剣で斬りつける

サイコ「ぐっ！！もしかして容赦なくやってるよね？」

ジーグ「もちろん」

サイコはエスパータイプなので悪系は効果抜群だ、なので結構ダメージを受けている

サイコ「高速移動！」

高速移動を使って素早さを上げた

ジーグ「波動砲！！」

ジーグの波動のエネルギーが放出された

サイコ「わっ！」

ドカーン！

サイコはよけきれず波動砲が当たってしまう

バタ！

サイコ「……」

煙りが引くとサイコは気絶していた

ジンオウガ「（主人公が負けてどうする！まぁ元人間がポケモンになってバトルが上手いわけないか！」

またもや見に来ている。でも自分のギルドに行ったんじゃ…

一稀「次はシロップＶＳツタン」

ツタン「来た！」

シロップ「負けませんわ」

さてツタンは天使の力に勝てるのだろうか

一稀「では、始め！」

シロップ「天空の槍！」

なんとシロップの手元のストームソードが水色の槍に変わった

シロップ「受けなさい！旋風突き」

風をまとった槍でツタンに突く

ツタン「ぐっ！負けるか、リーフブレイド！！」

しかしリーフブレイドはシロップが速すぎて当たらなかった

シロップ「残念（笑）とどめよ、天空の暴火！！」

水色の炎が放たれて、ツタンに当たる

ツタン「うわぁあああああああ！！！！！」

バタ！

ジンオウガ「Xストリームってどんだけ強いんだ（汗）」

一稀「次は……って！もう時間じゃん！」

というわけで

～１５：００～

プクリン「さあ、まず一緒に行動するチームを発表するよ♪最初は無双転生のサイコとジェネラルリーフのツタン、ザーガとデビルエンジェルのジーグ、シロップ」

サイコ「ジーグ君！一緒だね。」

ジーグ「おう！」

一稀「続いてスラーズのスラリン、メタリン、ミイホン、スライバとキマワリとビッパが同じチームだ！」

スラリン「キマワリさんと一緒♪」

キマワリ「一緒ですわね」

スライバ「（ぐだらん…）」

第１１話　サイコの地獄の大特訓その４（後書き）

～お知らせ～
サイコ達を新マップへ移動させようと思います。４大大陸をがあります。北（上）のローラル大陸にあるローラル王国には色んな種族がすんでいます。南（下）のソロリア大陸にあるソロリア王国には主にポケモンとモンハンのモンスターが住んでいる。西（左）のバリル大陸にあるバリル王国には主にドラクエのモンスターやそのほかの生き物が住んでいる。東（右）のモクロア大陸にあるモクロア王国には人間や色んな種族が住んでいます。この大陸のどれかに住んでみたい人、キャラを募集します。詳しくはいつか。
では！

第１２話　予定外（前書き）

サイコ「予、予定外！？」

うん！俺に倒されるんだな！！

ツタン「ようするにジンオウガが来るって事だよね？」

……べ…別にそういうわけじゃ……

ザラキ「バレバレ！たとえダーマ親方にたのまれたとはいえ、なぜこんなやつの味方にならないといけないのだろうか」

聞こえてる！

ザラキ「ちっ！」

では第１２話！

サイコ「めんどくせぇ」

※ジンオウガ事件が終わったあとに引っ越しをさせようと思います（あと２話ぐらいかな？）

第12話　予定外

一稀「残りは各自、自由にくんでくれ。」

ザーガ「質問！そこにジンオウガがいますがどうしますか？」

一稀「先に特訓！！」

全員「えっ……」

一稀「な、何！？どうせ嘘だろ？」

といいみんなが指差す所を見たら…

ジンオウガ「よっ！（笑）」

一稀「い、いつのまに！」

ザラキ（ダークライ）「さっきから」

アラシ（アオアシラ）「気づかなかった？」

スリーパー「久しぶりに悪になったな」

ザキ（マニューラ）「2人とも、俺の番をぬかないでくださいよぉ～」

デスピー（デスピサロ）「俺っち…向こうが良かった……」

ジョー（シドー）「どんまい！」

リュウキ（竜王）「ハハハハハハハｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ（爆笑）」

ダーマ（ダークルギア）「向こう、弱そうにしか見えないんスけど」

マーギラ（ボスコドラ）「いやいや」

ギス（ドスギアノス）「１０秒で考えられた俺……」

ドファン（ドスファンゴ？大猪）「うぉおおお！暴れてやるＺｅ」

ドラ（ドスランポス）「はぁ…」

ドポス（ドスゲネポス）「まぁため息するなって」

ドオース（ドスイーオス）「うるさい！毒でもかけようか？」

クック（イャンクック）「………暇だなぁ～」

ジンオウガ「やっと終わった……」

結構いるね…ｗ

サイコ「ムリ

ムリムリムリムリムリムリムリムリムリムリムリムリムリムリムリ
ムリムリムリムリムリムリムリムリムリムリムリムリムリムリムリ
ムリムリムリムリムリムリムリムリ（汗×∞）」

サイコの多重人格をだそうかな。てかムリ多っ！

サイコ「何か言った？」

いえいえ

ジンオウガ「俺がいるだけで人格が2人いるだろうが」

一稀「いけぇ！！」

プクリン？一稀チーム「おおーーーーーーーーーーーーーーーーー！！！！」

ジンオウガ「負けるな！行けぇえええ！！！」

ジンオウガチーム「おおーーーーーーーーーーーーーーー！！！！！」

第１２話　予定外（後書き）

用事が有るので落ち！

第１３話　ＶＳジンオウガ　前編（前書き）

サイコ「更新早いね」

ではゴーＧｏｏ↑早っ！

第１３話　ＶＳジンオウガ　前編

バキ！ザク！ダン！ガキ！

今は大接戦中である。

サイコ「乱舞！！」

ジンオウガ「アイアンテール！！」

ガッ！

アイアンテールと乱舞がぶつかり合った。しかし体格の差でジンオウガの方が上のため、サイコはアイアンテールに当たって押しつぶされてしまう

サイコ「ううう……、ジンオウガ体重何ｋｇあるんだろう……。こんな…体重で……ふまれたら……」

ジンオウガ「ふはははは（笑）」

サイコが意識を失いかけたそのとき！

ツタン「リーフブレイド！！」

ジンオウガ「うおぁあ！」

ツタンが助けに来た！

ツタン「くたばるのは早すぎないか？」

サイコ「……あ！！鎧を忘れてた！どうりで軽いわけだ」

ジンオウガ「もう、遅い！電撃砲！！」

ジンオウガの口から電撃を放った

サイコ「双剣シールド！！」

ガッ！

双剣シールドは電撃砲を跳ね返した。が、あまりに威力が高すぎてサイコの双剣の一部が破損した。

サイコ「どどどどうしよ～～、あ！」

サイコは双剣に貼り紙を付けて

サイコ「武器転送！」

バチバチバチ！バシュ！！

武器は一瞬にして消えた。一方…

バチバチバチ……。

ライク「やっぱり……（汗）」

といって修理＆強化を始めた

さっ！戻ろう

アラシ「おらぁあ！！」

アラシはひっかく攻撃をした。

スラリン「スラ？ストライク！！」

一方スラリンはスラ？ストライクで対抗している。
こっちは

ジーグ「暗黒斬り！！」

クック「うわぁああ！！」

バタ！

シロップ「天空の暴火！！」

ジョー「ぐぁあああああ！！！！！」

バタ！

第１３話　ＶＳジンオウガ　前編（後書き）

中途半端な所で終わった。てか今ＡＭ２：２０

サイコ「本当だ」

てかジーグとシロップ強っ！

では！←また早っ！

第１４話　ＶＳジンオウガ　後編（前書き）

ついに決着！（と思う）

Ｇｏｏ↑早っ！

第１４話　ＶＳジンオウガ　後編

ただいま（プ？一、１０ＶＳ６、ジ）です。残っているのはサイコ、ツタン、ザーガ、ジーグ、シロップ、スラリン、スライバ、プクリン、一稀、コザト、ジンオウガ、ザラキ、アラシ、デスピー、ダーマ、マーギラの１６名。今のところはプクリン？一稀チームの有利だがやられたほとんどがダーマにやられている。

スラリン「最終兵器！笛～」

ピュ～～～～

笛の音が響いた。すると…

ゴゴゴゴゴガタン！

なんと勇車スラリンガルがあらわれた。

スラリン「スライバくん、乗ろう！」

スライバ「ああ！」

スラリンとスライバはスラリンガルに乗り込んだ。

アラシ「ええーー！！そんなのありかよ！！」

ドーン！

スラリンガルが勇車の剣をとばした。

アラシ「ぎゃあああ！！」

グサッ！

勇車の剣はアラシにぶっ刺さった

アラシ「ぐっ！！ここ…ま……で……か……」

バタ！

アラシは倒れた。

これを見ていたデスピーは

デスピー「よくも俺っちの仲間を…食らえ！メラガイアー！！」

巨大な火の玉がスラリンガルに当たる。

ドカーーン！

スラリンガルは爆発し、スラリンとスライバは爆発の威力で倒れた。

一方コザトは

マーギラ「やるな、だが！」

ダーマ「これで終わりだ！」←コザトの後ろに回り込んでいた

コザト「え！？」

ダーマ「ダークスマッシャー！！」

コザト「うわぁあああああああ！！！」

コザトはダーマに倒されてしまった。

しかし

プクリン「たぁあああ！！！」

マーギラ「ぐはぁ！」

プクリンが後ろから攻撃した。

マーギラ「ひ、卑怯だぞ！」

プクリン「君達のほうが卑怯でしょ♪」

ダーマ「たしかにな。だが、貴様の命もこれまでだ！ダーク…」

マーギラ「インパクト！！」

2匹の合体必殺技。ダークインパクト。闇の気を2匹どうじに放つ技。プクリンはどうするのか？

プクリン「ひょい♪」↑よけた

よけた…しかもその後ろには

ザラキ「悪の波…。ん？え！ええ！ええええ！！！」

ドカーン！

ザラキに直撃し、吹っ飛んでいきました（笑）

ダーマ「怒った…。マーギラ！あの技を使うぞ！」

マーギラ「しかし…あれは、生け贄が必要ですが…、まさか……」

ダーマ「ああ！そのとうりだ！吸収！！」

ダーマはマーギラの力を吸い取り始めた

マーギラ「っ！力が……！まぁダーマ様のためだからしかたないか……。ぐわぁあああああ！！！」

ダーマ「吸収完了！」

ダーマは吸収を終えて上昇し始めた

ダーマ「ファイナルダークインパクトブレイカー！！」

ものすごいエネルギーが発射された。

一稀「ゲゲッ！やべーじゃん」

サイコ「そんなん知っとーと」

一稀「なぜ博多弁！？と、とにかく俺の後ろに！」

サイコ「はい！」

ファイナルダークインパクトブレイカーは一稀？プクリンチームのサイコ以外、全員にあたった。

一稀？ツタン？ザーガ？ジーグ？シロップ？プクリン「うわぁあああああああああああ！！！！！」

サイコ以外はすべて倒された。
いまは（１ＶＳ３）
あきらかにサイコだけのほうが不利である。

サイコ「えええ！！！！！」

さてどうなるのか！？

第１４話　ＶＳジンオウガ　後編（後書き）

サイコ「おいおい（汗）」

せいぜい頑張りな！

サイコ「無理」

ではまた！

第１５話　決着！（前書き）

ついに決着！ついでにサイコのパートナー&多重人格が出てきます。

サイコ「パートナー？」

ミュウと言えば！

ツタン「ルカリオ！」

ブー！一番最初のポケモン映画に出てきたポケモン（多分え

てかこのままだとこいつらにネタバラシしそうなのでＧｏｏ

第１５話　決着！

只今１ＶＳ３で睨みあっていた！？

サイコ「あのー…、いつまでこれを…」

ジンオウガ「サイコさんが降参するまで」

サイコ「それな言い方しても降参しませんｗ」

ジンオウガ「あっそ！」

サイコ「阿蘇？」

ジンオウガ「いやいや（汗）」

サイコ「じゃあ唐津？」

ジンオウガ「いやそーゆうことぢゃないから」

サイコ「じゃあ糸島？」

ジンオウガ「それ作者の現在地だから」

サイコ「糸島市前原駅南…」

ジンオウガ「それ言ったらだめ！てかなぜ知ってる！？」

サイコ「作者のキャラだから」

ジンオウガ「たしかに」

サイコ「てかいつまでこんな話してるの？」

ジンオウガ「君が攻撃してくるまで」

サイコ「攻撃してくるの待ってたの！？では遠慮なく、乱……。双剣が無いこと忘れてたー！！」

ジンオウガ「死ねぇえええええええええええ！！！！！！！！」

サイコ「……。サイコ砲！！」

サイコの生命の一部をエネルギーにして、発射する技。それがサイコ砲！

ドカーン！

サイコ砲がデスピーに直撃！

デスピー「うわぁお！ちょっと痛いけどそんなに痛くない」

ジンオウガ「今だ！食らえ！電撃砲！！」

ジンオウガは電撃砲を放った。

サイコ「うわぁあああああ！！！」

ドカーン！

しかし、サイコには電撃砲は当たっていなかった。サイコが目を開けてみると、ミュウツーが立っていた

ミュウツー「大丈夫か？」

サイコ「誰！？」

ダカイ「俺はダカイ、よろしくっ！」

サイコ「どうして来たの？」

ダカイ「作者にサイコのパートナーをしてくれないかと頼まれて…そして来てみたら、この状況になっててだから助けた」

サイコ「とにかくやるよ」

ダカイ「おう！」

サイコ「サイキック」

ダカイ「チャージ」

サイコ？ダカイ「インパクト！！」

すごいエスパーの気が放たれた。そのまま3人達に当たった

ドカーーーン！！

シューー……

煙りが引くとジンオウガ以外の2匹は倒れていた

ジンオウガ「ふざけるな…！」

ジンオウガは電気をためはじめた。そして

ジンオウガ「うぉおおおおおおお！！！！」

帯電状態になった

ジンオウガ「電撃玉！！」

ジンオウガから放たれた2つの電撃玉はなんと黄色ではなくピンク色になっていた。しかも追跡付きw

ドカーン！

2つの電撃玉がサイコとダカイに直撃した

サイコ「ぐっ！！はぁ…はぁ…はぁ…」

ダカイ「うっ！！パートナーになったのにお役にたてなくてスミマセン……」

バタ！

といってダカイは倒れた

サイコはかすっただけだったがダカイは急所にあたったようだ

サイコ「……ふざけるな…、ふざけるんじゃねぇえええ！！！！！！！！」

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴ！！！

サイコのあまりにもすごい気で地面が揺れている

ジンオウガ「……（思ったが俺が倒されたら、捕まえられかねない。ここはずらかるか）なかなかやるな！しかしこっちも新マップで忙しいんだ！だから行くよ、新マップで待ってるよ！全員転送」

バチバチバチ！シュン！

ジンオウガ達は消えてしまった

サイコ「…ぐっ！……」

バタ！

サイコはこれまでのダメージにより倒れてしまった

第１５話　決着！（後書き）

おいおい！みんな倒れたらどうするんだよ！

ライク「オレガタスケニイク」

へんだけどまぁいいや

では！

コラボ企画（無期限。気軽に言ってね）

。少し前にコラボをしようと言ったし、新マップになったのでコラボをします。気軽に話しかけてください。１人の作者で１つの街を作ってください。詳しく言いますと、コラボするキャラ（何匹でもＯＫ）に自分達だけの街を造らせます。いろいろ良かったら他の住民まで引っ越してきます。（シムシティかっ！）そしていろいろな事をします。でももちろん僕キャラが造った街に住んでもＯＫです。街を造る場合は街に名前をつけてくださいよ。（じゃないと名無しにぃ～）

それでは書く事を書く前に記号説明

［１］必ず書く　［２］あれば必ず書く

［３］書かなくてもいい

です。ルールや注意は

１、荒らさない　２、エロい事はちょっと…

３、グロは多少なら　４、作者は文章力が無いので少しキャラ崩壊しそうです

５、ポケモンやドラクエとかでガセやガセっぽいのは控えてください

６、みょうに長いです　７、説明が下手

８、小説家になろうに登録している人はメッセージでお願いします

９、小説家になろうに登録していない人はこの作品の感想からお願いします

１０、キャラについては人数分書いてください

１１、ともだち～ともだち～♪（えです。まずキャラについてです。ルールや注意に同意できる人はＧｏ！

［１］名前（ニックネーム）、［１］種類（ポケモンとか人間とか何でもＯＫゲノセクトとかもＯＫです）、［２］特徴（目が細いや障害など）、［１

］性別、［2］チーム名、［1］チームメイト（チームが無い場合や単独の場合は1、それ以上の場合はそいつの分も書いてください。ついでに誰がリーダーかも書いてください）、［2］所属ギルド、［1］性格、［1］一人称（僕や僕達など）、［1］二人称（君や君達、名前呼びなど）、［2］装備品（太刀やおでこに鉢巻きなど）、［1］技（ポケモンとドラクエの技以外は説明を書いてください）、［2］好きな食べ物や料理（なんでもＯＫ）、［2］嫌いな食べ物や料理（なんでもＯＫ）、［2］作れる料理（何でもＯＫ）、［2］得意料理（何でもＯＫ）、［2］作れない料理（なってＯＫ）、［1］こっちに来てやること（修行や街を造るなどなんでもＯＫ。僕のキャラと物語りに参加するなどもＯＫ。めんどくさいなら。そのときになってやることを毎話更新したときに感想にやることをかいてください。むしろそのほうが僕も楽いです）、［2］付け足し　自由記入

次はマップについて（記号はさっきと同じ）ではＧｏ！

［1］行く大陸（行ける大陸は人間以外が住むローラル大陸か主にポケモンとモンハンモンスターが住むソロリア大陸かドラクエモンスターやその他の生物が住んでいるバリル大陸かほぼ人間が住んでいるモクロア大陸です）、［1］住む街（自分達で街を作り住むか作者のキャラが居る街に住む（選択肢はサイコ達かスラリン達かライク達かジンオウガ達か……ああ！面倒だからいままで出てきたキャラ何でもいい））、［1］（住む街で自分達で街を作り住むと書いた人のみ）街の名前（ご自由に）、［1］建設方法は？（手でとかつるのムチでやサイコキネシスでとかキャラ指定で書いてくれたほうが一番いいです）、［1］何を建てる？（家やギルドとか飛行場とかw何でも）、［2］付け足し　自由記入

多分以上です、書き忘れがあったら言います。応募方法は、なろう

に登録している人はメッセージ。登録していない人は夢と希望にお願いします。では！（長くてスミマセン。大変でしょうがどうぞよろしくお願いします）

第１６話　お知らせ（前書き）

このときを待っていた！！！！

サイコ「張り切りすぎ」

新章、新マップ開拓編。スタート！

第16話　お知らせ

病院にて

サイコ「うう…。こ、ここは……」

サイコが目を開けると…

ミュウツタオウガ（作者、人間）「起きた？」

サイコ「うわぁ！人間だ！（しかも久しぶりの）」

ミュウツタオウガ「全員起きたらあることを話そうと思って来たんだけど…まだ起きてない人達もいるみたいで」

サイコ「あと誰？」

ミュウツタオウガ「ツタンと一稀とプクリンだよ」

サイコ「プクリン親方も話しをするの？」

ミュウツタオウガ「もち！」

そう話していると

ラッキー「作者さーん。ツタンさんと一稀さんとプクリンさんが起きましたよ～」

ミュウツタオウガ「いまいきます」

というってサイコを抱いて3匹の所へ

ミュウツタオウガ「よっ！」

全員「さ、作者！？」

ミュウツタオウガ「皆さん、もう1人の僕相手によくここまで戦ってくれた。」

サイコ「はい…（この抱き方止めてほしい…）」←お姫様抱っこされている

ミュウツタオウガ「話しとは、新マップへ移動しようと思う」

サイコ「なんで？」

ミュウツタオウガ「自分で作ったほうが面白いから、といいたいが正確には時闇空のマップが面倒くさい」

ツタン「へぇ…」

一稀「もうひとりの作者は？」

ミュウツタオウガ「先に連れて行った。けど行ったとたん唖然してたw」

ザーガ「なぜ？」

ミュウツタオウガ「それは行ってからのお楽しみ♪」

まぢ、やぶぁいよ

ミュウツタオウガ「だが、ルールがある。１つは自分達で開拓すること。もう１つはポケダンの元々いるキャラは行けない。正確には連れて行かせたくない」

サイコ「ギルドは？」

ミュウツタオウガ「自分達で作る」

サイコ「……無理！」

ミュウツタオウガ「しかしギルドを作るにはギルド作り認定証が必要です。ちゃんとその施設を用意しておくから」

ツタン「ほかの作者のキャラも来るの？」

ミュウツタオウガ「来なかったらデカい大陸をどう使う」

ツタン「そうですよね…」

ミュウツタオウガ「ちなみに予算は１０００００Ｐだよ（１人分）」

サイコ「スラリンや、まめっち達は？」

ミュウツタオウガ「ポケダンキャラじゃないので連れて行きます」

ダカイ「俺の事、忘れてない？」

ツタン「誰！？」

サイコ「僕の新パートナー」

ダカイ「よろしく！」

ミュウツタオウガ「じゃあね～」

サイコ「連れて行かないの？」

ミュウツタオウガ「自分達で行って」

サイコ「無理！」

ミュウツタオウガ「そこの新マップホールがあるからそこに入れば行けるよ。けど手をつないだり、くっついとかないとはぐれるからね。じゃあバイバーイ！」

作者は行ってしまった

そして新マップホールを見てみると、貼り紙が貼ってあった。

第１６話　お知らせ（後書き）

サイコ「なんかほとんど進んでないね」

だってねむた……

サイコ「では！」

あああああ！！！！

第17話　出発。そして唖然（前書き）

サイコ「あの～。唖然って何！？」

それは行ってからのお楽しみ～

ダカイ「では第17話。スタート！」

第17話　出発。そして唖然

一番右のワープホールの貼り紙には…

一番右の貼り紙「このワープホールはローラルに続いています。この土地にはローラル王国があり、ほぼ全ての種族が住んでいます。以上（この大陸には伝説の洞窟があるから探してみてね～）」

と書いてある。真ん中の貼り紙

真ん中の貼り紙「ここのワープホールはソロリアに続いているよ。ここには主にポケモンとモンハンモンスターが住んでいるので他の種族の方はそれを承知の上で飛び込んでね～。（この大陸には伝説の森があるからね。）」

と書いてある一番左の貼り紙は

一番左の貼り紙「ここのワープホールはバリルに続いているよ！主にドラクエモンスターやたまごっちキャラやその他の種族が住んでいる。」

と書いてある。しかも下に紙が落ちていた。読んでみると

落ちていた紙「あ！それとモクロアは人間が居るから（この紙についてるボタンを押したらワープホールが出てくるから）」

みんな全ての紙を読み終わった所でみんな考え始めた

サイコ「どうする？」

ダカイ「その言葉、ツタンにそっくり返す」
ツタン「え！？じゃあザーガに回す」
ザーガ「じゃあローラル」
ダカイ「そ、それでいい？」
サイコ「問題なーし」
ツタン「同じく！」
ザーガ「んじゃ決まりっ！」
というわけで無双転生とジェネラルリーフはローラルに決まった。
デビルエンジェルとXストリームとスラーズは
シロップ「どこにするの？」
一稀「ローラル！」
スラリン「バリル！」
ジーグ「じゃあローラル」
というふうに決まった。ライクとまめっちは
ライク「まめっちは友達と同じ所に行く？」

まめっち「いえ、僕はライクさんと一緒に行きます！」

と決まった。あとのキャラは行ってからのお楽しみ！

一稀「みんな！行くぞ！」

みんな「おおーーーーーーーーーーーーーー！！！
！！！」

といって一斉に飛び込んだ
まずはサイコ達から

ドカ！

サイコ「つ、着いた。けど…気持ち悪い………」

ツタン「看板によるとここは…………………」

どうやらワープホールで酔ったようだｗ

ザーガ「どうした？」

ツタン「空き地…」

全員（３匹）「空き地！！！！！？？」

これはもう唖然どころじゃないようだ

ダカイ「じゃあ……自分で作れと？」

ミュウツタオウガ「そうだけど」

サイコ「作者、いつの間に！？」

ミュウツタオウガ「ちょっと渡す物があって、はい！工具と家や建物を作るための材料！」

すると真上から材料系が落ちてきた

ツタン「やっぱ……自分達で作れと」

ミュウツタオウガ「それ以外になにがある？」

サイコ「だよね…（汗）」

ミュウツタオウガ「ではでは！」

と言ってどっか行きました

サイコ「ど、どうする？これから」

ツタン「作るしかない」

さらにこっちでも

ミュウツタオウガ「じゃあよろしく～」

一稀「いやいや！俺、建設無理だから（汗）」

ミュウツタオウガ「ではでは！」

やっぱり最後にこう言って行った
はたまたこっちでも
スラリン「僕達、どうやって作るの？手ないし」
ミュウツタオウガ「誰か手伝わせるから、ではでは！」
やはりこう言って行ったw

第17話　出発。そして唖然（後書き）

次回はそれぞれ書きます！まずはサイコ達

サイコ「あっそ」

ツタン「無理！」

ダカイ「エスパーと草がいるだけでましだと思えよ、スラリン達なんか手がないし」

ザーガ「たしかに」

ではでは！↑お決まりの台詞

第１８話　無双転生＆ａｍｐ；ジェネラルリーフの建設！～新住民！エイシア

ギャアアアアアアア！！スーパーポケモンスクランブル発売延期になったぁあああ！！！！！！

サイコ「へぇ～、残念だったね」

ツタン「でいつになったの？」

８月１１日！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！

ダカイ「結構延びたな」

だろぉおおお！！！！！！

ザーガ「と！に！か！く！！小説に集中しろ！！！」

だね、さて今回は新住民が来ます

サイコ「エイシアとブライトか」

とにかくＧｏ！（Ｔ～Ｔ）（泣）

ツタン「まだ気にしてるの？（汗）」

第18話　無双転生&ジェネラルリーフの建設！～新住民！エイシャ

ダカイ「さて、ん？なんか看板があるぞ！」

看板「無双とジェネラルは同じ土地だからね～。広くしてるからいけど」

ツタン「何考えてんだろう。てか広っ！！！！！！！！！！！！（汗）」

サイコ「プクリンのギルドの5個分以上あるよこれは」

はい（笑）

ダカイ「やっぱ将来ギルドを経営するからじゃない？」

サイコ「それじゃあその時に増やせばいいじゃん」

ザーガ「てか人手足りないけど、これでは…」

ツタン「たしかに4匹じゃ…」

サイコ「半年以上かかるよね、絶対」

ツタン「助っ人くると思うよ」

サイコ「かもね、さあ始めよう」

というわけで建設スタート！と、思いきや

ツタン「設計図ってどうやって作るの？１ｍｍもずれたらダメなんでしょ？」

サイコ「たしかに（汗）」

ザーガ「簡単だろ」

と言って紙に書きはじめた

サイコ「す、すごい！」

そして少ししして

ザーガ「完成！」

ツタン「早っ！（唖然）」

サイコ「でも見た所３Ｆ＋Ｂ１Ｆだけど（汗）」

ザーガ「４匹で使うなら広くしないと！（笑）」

サイコ「１匹、１Ｆ！！！！！！！！！？（汗）」

ザーガ「イェイ！」キラーン☆←効果音

サイコ「ヒソヒソヒソヒソ（ザーガってこんな性格だったっけ？）」

ツタン「ヒソヒソヒソヒソ（昔から（汗））」

ヒソヒソ話をしているサイコとツタン。ダカイは

ダカイ「俺２Ｆ！」

サイコ「乗ってる！？」

話しに乗ってた

ツタン「もういいや。僕は３Ｆ」

サイコ「僕は秘密基地っぽくＢ１Ｆ！」

ザーガ「じゃあ俺が１Ｆで決まりっ！」

結局みんな乗ってるし（汗）

ツタン「さて改めて建設しよう！！！」

全員「おおーーーーーーーーーーーーーーーー！！！！！！」

ついに建設開始！と、また何かあったようだ

ブライト「ここかぁ～。新しく住む場所は」

エイシア「そうね。作者から急に引っ越せなんて言われたけど、これもいい思い出になるわよね」

説明しよう！この２匹。リーダーのエーフィのエイシア（♀）とブラッキーのブライト（♂）。チームの名は月光。どうやら作者に言

われて来たようだ

エイシア「あれ？どうやらすでに住民が４匹いるようね。って！ブライトの奴、もう行ってるし」

サイコ達は設計図に夢中で月光には気づいていないようだ。そこへ

ブライト「やぁ！こんにちは～！」

ツタン「うぁあ！ビックリしたぁ」

ブライト「君達も作者の気まぐれな思いつきで来たのかい？」

サイコ「思いつきは無いと思うよ。結構頑張ったって言ってたし」

ブライト「え？そうだったの？」

おいおい（汗）

エイシア「お前ー！！！作者に変な事言ったら殺されかねないわよ！！」

ブライト「ス、スミマセン！姉ちゃん！」

ダカイ「ね、姉ちゃん！？もしかして」

エイシア「あたしの弟だけどなにか（殺気ＭＡＸ）」

ザーガ「ではお詫びにあなた方の家を作ってあげましょう（怖い！殺される！）」

エイシア「ありがたい！よろしくね☆もちろんあたしも手伝うけどね」

ザーガ「ありがとうございます！」

サイコ「ヒソヒソヒソヒソヒソヒソ（ザーガって接客上手だね）」

ツタン「ヒソヒソヒソヒソヒソ（僕も知らなかった）」

ザーガ「それで何Ｆ建てがいいですか？」

エイシア「そうね、２Ｆ建てでいいわ」

ザーガ「ではどこに建てますか？」

エイシア「あんた達の向かい側で」

サイコ「答えるの早っ！（汗）」

エイシア「迷うのが嫌いなので（笑）」

ダカイ「へぇ～～」

サイコ「てか早く始めないともうすぐ夜だよ」

そう、いまの時間は４：２５である

エイシア「で食べ物は？」

サイコ「知らない」

どうやら食べ物は無いようだ

エイシア「じゃあ捕ってくるね」

全員「おい！（汗）」

みんな同時につっこんだ

ツタン「じゃあちょっと南に向かったら森があったから、そこからリンゴとかいろいろ食べれそうな物をとってきて」

エイシア「分かったわ。ブライト！行くわよ！」

ブライト「は、はい！」

と言って南にある森にまで行った

第１８話　無双転生&ジェネラルリーフの建設！～新住民！エイシ

３ＤＳが値下げになったぁあああああああああああああああ！！！！！！

サイコ「前書きとテンションすごく違うなおい」

あ！コラボしようと思います。詳しくは活動報告で

では！

第１９話　無双転生&ジェネラルリーフ&月光の建設！～ニ

サイコ「夕食か、何か心配」

ツタン「たしかに（汗）」

では第１９話

サイコ「はぁ…」

第19話　無双転生&ジェネラルリーフ&月光の建設！～ニ

ザーガ「まずテントを作るぜ」

サイコ「たしかに、寝る所がないとね」

というわけで最初はテント作りから

サイコ「ここをこうして…」

ダカイ「これをこんな感じにすればいいか？」

ザーガ「いいよ」

さて、テントを作ってる間にエイシア、ブライトを見てみよう

ブライト「姉ちゃん、これ食べれる？」

と言ってブライトが見せた物は大根（え

エイシア「食べれるわよ」

ブライト「そういえばこれ何て言う食べ物？」

エイシア「大根」

ブライト「へぇ～」

という会話をしながら食べ物集めをして1時間後…

エイシア「今回の収穫はオレンの実×５、大根×２、みかん×４、リンゴ×１２、バナナ×５、水×１０、以上ね」

ブライト「じゃあ戻ろうか」

一方、サイコ達も

サイコ「出来た…」

ツタン「疲れた」

テント造りで疲れ果てた様子。そこへ

エイシア「ただいま」

ブライト「いっぱい取ってきたぜ」

チーム「月光」が帰ってきた

エイシア「じゃあ夕食作るわね」

ツタン「よろしく」

早速作り始める。前に

エイシア「火は？」

全員（サイコ以外）「あ……」

サイコ「多分炎使える」

ツタン「多分って（汗）」

サイコ「じゃあ燃える物を持ってきて」

というわけで杉やらなんやら持ってきました

サイコ「いくよ……、メラ！」

と唱えると小さな火の玉が出てき、萌（燃）える物に当たり燃えはじめた

ダカイ「燃え…たけど、ドラクエの魔法じゃん」

エイシア「どうやって覚えたの？」

サイコ「なんとなく」

会話はなんとなく終わり、燃える物を集めはじめた

ツタン「そういえばみんなはどこに行ったんだろう」

ダカイ「大半はこの大陸だったけどね」

ツタン「でも僕達の後にも結構居たらしいよ、作者から聞いた」

ダカイ「そういえばこの頃作者の更新％（率）低いよな」

ツタン「新キャラ設定に予想以上に手間取っているんだって」

ダカイ「へぇ～～～」

な、何その納得のしかた

サイコ「向こう何話しているんだろう」

ザーガ「知らない」

サイコ「てか建設に何十話位使うんだろう…」

ザーガ「２０話位いくんじゃね？」

サイコ「でもなんか縮めそう」

ギク！

ザーガ「居たんだ…」

まぁ

サイコ「じゃあどうして「」じゃないの？」

……では！

サイコ「逃げた…」

そして

ツタン「これ位あれば明後日まで大丈夫だと思うよ」

エイシア「じゃあ料理を始めるわよ」

第１９話　無双転生&ジェネラルリーフ&月光の建設！～ニ

サイコ「遂に料理が…」

さて次回は、エイシアの料理が！

サイコ「不味い」

エイシア「失礼ね」

第２０話　無双転生&ジェネラルリーフ&月光の建設！～

サイコ「とうとう夕食」

ツタン「味はどうなんだろうね」

ブライト「姉ちゃんの料理、けっこう美味しいよ」

ザーガ「へぇ～」

あ！それとサイコ達の出番は次の話しで一時休み！

ダカイ「良かった」

サイコ「次は誰だろう」

では丁度第２０話！

ブライト「腹減った♪」

第２０話　無双転生＆ａｍｐ；ジェネラルリーフ＆ａｍｐ；月光の建設！〜て

〜１時間後〜

エイシア「出来たわよ」

木でできた手作りのテーブル（ツタンが作った）に料理が置かれた

ツタン「何か思ってたより美味しそう」

エイシア「なに？そんなに私が料理下手だと思った？（怒）」

ツタン「いや……そういうわけじゃ……」

エイシア「よっぽど殺られたいようね（激黒）」

何か怖い

ツタン「………………………」

あまりの怖さに声がでないツタン

エイシア「エスパースラッシュ！！！！！！！！！！」

ピンクの衝撃波を作り、ツタンに飛ばした

ツタン「えっ…ええええっ！！！」

ドカーーーーーーーーーーーーーーーーーーーン！！！！！！

サイコ「だっ、大丈夫！？ホイミ！」

サイコがドラクエの回復呪文を唱えてなんとか一命をとりとめた（え

ブライト「姉ちゃん、落ち着いて」

エイシア「向こうが悪いんじゃない？あんな言い方して」

ブライト「でもだいぶん姉ちゃん強くなったね。あのときにこんな強さがあったらお母さん達を助けられたかも…」

エイシア「そうね……。でも昔の事は忘れようよ……（涙）」

なんか急に切なくなってる

ブライト「でも忘れられない……。親孝行もろくにしてないのに……。あんなに優しかったのに……。それに友達まで……。村もあんなに活気あったのに……。平和だったのに……。うっ…でもなんでだろう……なんか急に泣きたくなって…き…た……うっ…うわぁあああああああん（泣）」

ブライトが泣き出した

エイシア「泣か……ない…で、私ま……で……うぇえええええん（泣）」

エイシアも泣き出した

サイコ「わわっ、ど、どどどどど、どうしたの！？」

あまりにも急で驚きを隠せないご様子

エイシア「……ひっく……ちょっと……思い出し泣きし…て……（泣）」

ザーガ「昔なにかあったんだ…。じゃあそのことを話してくれないか？結構すっきりするぜ」

まずは落ち着かせようとしている

エイシア「そう……だね……。じゃあ……まず私の…作った料理を食べなよ……（涙）」

ツタン「そうだね」

１０分位たち、エイシアとブライトが落ち着いたところでみんな座り

全員「いただきます！」

サイコ「ばく！もぐもぐ…。うわぁ！これめっちゃ美味い！！」

ツタン「本当！？じゃあ僕も。ガツッ！ムシャムシャ…。まじだ！。すげぇ美味い！」

ブライト「さすが姉ちゃん！もぐもぐ」

あまりの美味しさに…

～１５分後～

サイコ「あ～美味しかった」

ツタン「あっという間だったね」

エイシア「なかなかでしょ？」

第２０話　無双転生&ジェネラルリーフ&月光の建設！～

これ書きながらポケダンの「ずっと　わすれない」とかを聞いてたら泣けてきた（涙）

サイコ「意外と涙もろいんだね、作者は」

次回はエイシアとブライトの過去を

では！

第２１話　エイシアとブライトの過去（前書き）

ついに明らかに！そしてサイコ達の出番はこれで一旦お休みです

サイコ「疲れた」

でも主人公だからでるのは普通じゃね？

ツタン「たしかに」

では第２１話！

サイコ「……」←２４時間テレビを鑑賞中（え

第２１話　エイシアとブライトの過去

エイシア「じゃあそろそろ話すね」

ツタン「よろしく」

エイシア「それは2年前…」

私達はフローク村に住んでいたの

エイシア「お母さん！友達の家に行ってくるね」

母（リーフィア）「行ってらっしゃい」

ブライト「お姉ちゃん！俺も行きたい」

私は今日友達と遊ぶ約束をしていたの。友達の家は隣の村にあったけど、そんなに距離はなかったわ。そして出発して１０分

ブライト「後どれぐらい？」

エイシア「もうすこしよ」

そして話してるとき

ダッダッダッダッ

２匹のポケモンが通り過ぎた。ジュカインとライチュウだった。少し違和感があったけど特に気にもせずに歩き続けて5分後

エイシア「着いたわ」

ピンポーン

？？？？「はーい！」

ガチャ！

ピジョン「おっ！きたきた！」

ブライト「久しぶり！シーガン！」

シーガン「ブライトまで来てたか！まぁ上がって」

エイシア「お邪魔します」

ブライト「お邪魔しまーす」

私とブライトは友達の家に上がって、いっぱい遊んだ

エイシア「エへへヘッ（笑）」

シーガン「アハハハハ（笑）」

ブライト「ワハハハハ（笑）」

楽しい一時を過ごした。しかし……

シーガン父（ピジョット）「大変だ！！！フローク村が2匹のポケモンに襲われて

るぞ！！！」

エイシア「えっ……。ど、どういう事！？お母さんは大丈夫なの！？誰が襲ったの！？」

シーガン父「多分襲った奴はチーム「サザンバースト」だろう。メンバーはリーダーがライチュウのオウラ、あとジュカインのバディルだ！」

エイシア「そ、それって……」

シーガン父「どうしたんだ？」

エイシア「ここに来るときにすれ違った……」

シーガン父「それより逃げろ！直にこの村にも来る！」

エイシア「でもお母さんが……うわぁあああああ！」

私は急いでフローク村に向かった

ブライト「お姉ちゃん！俺も行く！」

エイシア「来ないで！あんたが居ても邪魔になるだけよ」

そしてフローク村に着いて私は言葉を失った。

エイシア「みんな倒れてる……家とかも燃えてる……。お母さんは！？

急いで家に戻ったら

エイシア「お前等は……オウラとバディル！！私達の村から出てよ！！！」

オウラ「全員を抹殺したらな」

エイシア「私のお母さんはどこ！」

バディル「もう殺したぜ？ほら」

そして見ると血だらけになったお母さんが倒れていた

エイシア「お、お母さん！！なんてことを！！！」

オウラ「だからどうした。お前ももう死ぬんだよ！バディルよろしく」

バディル「はいはい。リーフブレード！死にな！」

グサ！

エイシア「ぐはっ！」

リーフブレードが背中からお腹に貫通した。痛い！意識も遠くなっていった

エイシア「私の……っ！はぁ…はぁ……お母さんを……っ！はぁ…はぁ…返して……」

バタ！

私はとうとう意識を失ってしまった。

オウラ「ふんっ！これでこの村は全部だな？」

バディル「だろうな。次の村へ行くよ」

オウラ「だな」

そして起きたら

エイシア「……うっ！……私…生きてる」

ブライト「お姉ちゃん、起きた？」

エイシア「ブライト……っ！……まだ傷が……」

ブライト「そうでしょ。貫通してたんだから」

そして1ヶ月後

私の傷も完全に治った。そしてブライトにこういう提案をした

エイシア「ねぇ…探検隊を組まない？。私……悔しいの。誰も助けられなくて。どう？」

ブライト「いいねそれ。賛成！」

そして強くなる為に探検隊を結成した…

エイシア「……というわけ」

サイコ「そんな事があったんだ……」

ツタン「でも僕達も、もう仲間だよ。だから一緒に倒そうよ、サザンバーストを！」

サイコ「そうだよ！」

ダカイ「だな！」

ザーガ「2人よりいっぱいいたほうがね」

エイシア「ありがとう。でも今どこにいるかが……」

サイコ「大丈夫！作者に吐かせる」

ブライト「それ……いいの？」

ツタン「大丈夫！」

ツタン「じゃあもう出発！！」

全員「ええっ！？」

エイシア「いいわね」

サイコ「じゃあ…」

全員「出発！！」

第２１話　エイシアとブライトの過去（後書き）

はぁ…。一夜中ずーっと書きました、これ。

サイコ「これで出番が終わった！」

次はライクとまめっちです

では！

第２２話　ライクとまめっちの武器の素材集め！～訪問客～（前書き）

サイコ「あれ？建設しないの？」

見ればわかる。それと勝手な理由で休止してしまいスミマセン

サイコ「たしかスーパーポケモンスクランブルだったよね。どこまで進んだの？」

エンディングまで行って、ワールドランクは４

サイコ「結構行ったね。じゃあでは第２２話」

ツタン「ちなみに作者、今回途中で３ＤＳで書いたそうです」

第２２話　ライクとまめっちの武器の素材集め！～訪問客～

話し変わってここは……？ここは……

ジンオウガ「おい！どうした！！」

ここ……嘆きの森……だよね

ジンオウガ「そうだけど何？」

何故森ごと移動してるんだよ！！！

ジンオウガ「文句あんのか？ぶちのめしてやろうか？（黒怒）」

いえ何も…ではやり直し

ジンオウガ「では始めろ（（ ∀（ ））」

～テイク２～

ここは何故か嘆きの森……。その奥地に１匹のポケモンと１匹のたまごっちが居た。ポケモンの方はライクというストライク。名前の由来は好きという英語のｌｉｋｅだ

ライク「余計だ！／／」

一方たまごっちの方はまめっちという。実験が好きで何時も実験を

している。が失敗が何回か…

まめっち「にしても驚きましたね。森ごとワープするなんて」

ライク「まあ作者のおかげだ。にしてもあんなに資金をもらったんで一度元の方へ戻って色々買ってきてしまったな」

まめっち「そのおかげで森中に監視カメラを設置できましたけどね☆」

としゃべってた時に

ビーーー！ビーーー！！

いきなり警報が鳴った

ライク様、まめっち様。６名、客で御座います

ライク「お！モニターにだしてくれ」

「ブゥン」の音と共にモニターに監視カメラの映像が映しだされた。１匹目がうすいピンクの体に長い尻尾のミュウ、どうやらサイコのようだ。２匹目は白い体に紫の尻尾のミュウツー、ダカイだ。３匹目は緑と肌色の体に緑で……

ライク「知ってるから説明しなくていい」

そうですか…

ライク「にしてもどれぐらい強くなったかみてみたいな」

まめっち「というと」

ライク「仕掛けを使うんだよ、侵入者用の」

まめっち「いけないんじゃないんですか？」

ライク「あとでみんなにいいものあげるからいいの♪」

どうしてそんなにご機嫌なのでしょう

ライク「聞いて驚くなよ…。実はある事に成功したのだ！」

ある事とは？

ライク「タイm…「たりゃー！」」←まめっちが話しを止める為に攻撃した

ライク「何をする！？」

まめっち「ここで「タイムマシーン」なんて言ったら読者さんにばれます」

ライク「……」

……言いましたよ？

まめっち「うぁあああああ！やっちゃいました（泣）」

～2分後～

ライク「森内放送ＯＮ！」

放送のスイッチをいれて

ライク「無双転生とジェネラルリーフと……」

エイシア「月光です」

ライク「すまない、では改めて。無双転生とジェネラルリーフと月光の諸君！お前達にちょっとした試験に挑んでもらう。見事成功したらいいものをやる！」

「いいものはなんだろう…」と思った６匹が言った事は

無双・ジェネラル・月光「ポケ？」

ライク「もっといい物！ではスタート！！」

第２２話　ライクとまめっちの武器の素材集め！～訪問客～（後書き）

３ＤＳで初めて書いた感想。使いにくい！でも『』とか？とかもあるからいい

ツタン「良かったね」

じゃあでは！

第２３話　ライクの試験でサイコ達苦戦！？その１（前書き）

ライクの気まぐれな試験です

ライク「乗り越えられるかな？」

サイコ「楽勝！！」

では第２３話

サイコ「でも何か嫌な予感（汗）」

今回も新キャラ登場！

しかも驚きのキャラも登場します

第２３話　ライクの試験でサイコ達苦戦！？その１

ライク「いい忘れてたけどルールは１匹で行動すること。俺の所へ着いたら良いもの殺ろう……じゃなくて、やろう」

全員「ええ～～」

ライク「ではスタート！！」

と同時にエイシアは走り始めた

サイコ「速っ！」

続いてツタンが

ツタン「イェーイ（＜∀＞）」

テンションＭＡＸで出発

サイコ「なんか楽しんでる」

次はザーガが

ザーガ「何が来ようと殺るのみ」

スゲェやる気を持ちながら出発

サイコ「怖っ！」

今度はブライトが

ブライト「強ぅぃー敵出てこーい」

「強ぅぃー敵って……何？」とサイコが言おうとした……その時！

ダガイ「ぎゃはははははははははっはははは（爆笑）」

ダガイにはウケたようだ（笑）

ダガイ「まあいいや。俺も行くぞ！」

ついでにダガイも出発

残るサイコは

サイコ「メンドクサイ（笑）」

ちょ、主人公が何言ってんの！？

サイコ「だって～メンドクサイものはメンドクサイんだも～ん」

じゃあ主人公交代しようかな～

サイコ「分かりました！喜んで行きます」

別に喜んで行かなくても……（急に態度が変わった（汗））

サイコ「じゃあ出発♪」

これで皆出発した。一番最初にスタートダッシュをしたエイシアは……

エイシア「ポケ♪ポケ♪」

どんだけポケが好きなのやら

するといきなりそこへ

ヒトモシ「やあ、ライクの試験で来たんだね？」

しれーっと現れたヒトモシ

エイシア「うわぁ！てかあんた誰？」

ヒトモシ「僕はヒトモシのトーンさ！」

エイシア「でなに？」

トーン「あれ？案内役って言ってなかったっけ？」

これを聞いてエイシアは思った。「こいつ、キモいし天然。めっちゃ嫌いなタイプ」と

トーン「さあこちらです」

エイシア「はい…」

案内をしてもらった。このあとにヤバい奴が待ち構えてるとも知らずに……

～2分後～

いきなりトーンが

トーン「ここから敵が出ますがよろしいでしょうか」

と言ってくるので

エイシア「はいはい」

と答えた。その時エイシアはトーンが少し笑った気がしたと言う

さてエイシアがトーンと出会った同じ場所で……

ツタン「そういえば敵全然いないな…ということは……」

もわもわもわ←ツタンの妄想が浮かんでくる音

ツタンの妄想『敵いない＝楽勝『
楽勝＝良いもの
良いもの＝新し
い技マシン
新しいマシン＝
強くなる』

もわもわもわ←ツタンの妄想が消えていく音

ツタン「頑張るぞ！」

どういう妄想だよ（汗）

と妄想してる時に

ポカブ「やあ、君はツタ……ンだよね……」

ポカブが現れた！

ツタン「もちろんそうだけど」

ポカブ「良かったぁ～」

ツタン「何が良かったんかい！」

ポカブのリアクションに突っ込む

ポップ「申し遅れたけど俺はポカブのポップだ！」

ツタン「無視するんかい！」

また突っ込む

ポップ「ちなみに俺は案内役だから」

ツタン「だから無視すんな！しかも初めから言え！！」

ジンオウガ「テレビ局を造ろうかな。コイツ等面白いし」←作者の代わりに言ってくれました＼（＾ｏ＾）まあ僕の一部だけどねｗｗ

ｗｗｗ

ツタン「ポップ！とにかく行くよ！！」

ポップ「はい……」

ツタンとポップは出発した

その１０秒後

ザーガ「あれツタンじゃん。でも隣のポカブは……誰？」

すると

ミジュマル「君はザーガだね」

ザーガ「そーだけど」

ハル「僕は作者の実の弟、ミジュマルのハルだよ」

ザーガ「……作者の実の弟！！？？」

ザーガは驚きを隠せない。それもそのはず作者の本当の弟ですから

（まぁ実際の名前は少し違うけどね）

ザーガ「で何の用事で来たの？」

ハル「ライクが案内役をしてって言うから仕方なく…」

ザーガ「呼び捨て！？」

実際も作者の事をお兄ちゃんではなく呼び捨てで呼んでくる

ハル「じゃあ行こう！」

ザーガ「は、はい……」

ザーガは心配しながらついていった

ちなみに今エイシアはというと…

エイシア「……どんだけ敵がいるの！？」

少なくとも３０は居る

エイシアは大丈夫なのか！

第２３話　ライクの試験でサイコ達苦戦！？その１（後書き）

これ一部ネカフェ（インターネットカフェ）書いています
でもパソコン書きにくいＷＷ

サイコ「マジかＷＷＷ」

てか新キャラＷＷＷＷＷＷ

ツタン「あれは意外だったな」

ではまた！！

第２４話　ライクの試験でサイコ達苦戦！？その２（前書き）

さて久しぶりの更新ですね

サイコ「何してたの？」

色々と

ツタン「へぇ～。サボりとかじゃないの？」

ギク！と、とにかく第２４話！！行くよ♪たぁーーーーーーーーーー！！！！

サイコ「プクリンの真似！？」

第２４話　ライクの試験でサイコ達苦戦！？その２

エイシア「どうしよう……」

相変わらず相当の量の敵に囲まれている

エイシア「ここまでなのかなぁ……」

諦めかけたそのとき！

？？？「諦めるなんてらしくないですよ」

声が聞こえてきた。しかしその声は回りからは聞こえてない。心の中に語りかけている

エイシア「そ、その声は！お母さん！？」

エイシアの母「そのとおりです。にしてもあの頃より大きくなりましたね。あの頃は……」

５分後　※長かったのでカット

エイシアの母「それと諦めるなんて……小さい頃は負けず嫌いだったんですけど……とは言ったものの敵がこれじゃあ無理ですね（笑）」

この時エイシアは

エイシア「（お母さんってこんな性格だっけ？）」

と思った

エイシア「じゃあ何しにきたの？」

エイシアの母「ピンチだから新しい技を授けようと思ってね☆」

エイシア「本当に！？ありがとう！！」

エイシアはすごく喜んだ

エイシアの母「いくよ！それ！！」

すると空から光った粉がエイシアの所に降ってきた

エイシア「なんか力がわいてきた！お母さん大好き！！」

エイシアの母「じゃあもう行かないと。ばいばい…エイシア！」

この言葉を最後に声は聞こえなくなった

エイシア「頑張らなきゃ！」

気合いをいれた。目には涙がたまっていたが

エイシア「行くよ！ブイドラント！！」

相手に向かって走りだした。するとすぐに白いオーラのようなものがでてきた。

最初に相手にするのは岩、地面タイプのゴローン。もしノーマルタ

イプだと効果はいまひとつ。しかしゴローンに当たる寸前に白いオーラから青いオーラに変わった。
実はこの技の効果、必ず効果抜群。ブイズに伝わる伝説の技
エイシアはそのまま技を続け、１分３０秒後には全てを倒した
エイシア「はぁ……はぁ……やっと全て倒した」
エイシアはヘトヘトのようだ
ちにみにエイシアのいる所のすぐ近くにある木の影にツタンが隠れています
ツタン「エイシアってあんなに強かったんだ…」
感心してる。ちなみに（「ちなみに」２回目）エイシアにはすでにエイシア「そこにいるのは最初から分かってるよツタン！！」
バレていた
ツタン「あれ？気づいてた？」
と言いながら出てきた
ちなみに（３回目ｗｗ）エイシアが囲まれてた時から居ました
トーン「まあもうすぐ最後の場所ですし一緒に居ても構いません」
エイシア「そういえば１人行動って事を忘れていたね」
ポップ「俺の事も忘れないでくれよ」

ツタン「誰？」

ツタンはわざとボケたつもりだったが……

ポップ「そ、そんなぁ～！忘れるなんてひどいよぉ～（号泣）」

マジで泣き始めた

ツタン「嘘だって！ポップでしょ？」

ポップ「わ～～～～い！」

ツタン「（コイツ子供みたいだな）」

そして会話も終えて４人で歩き始めた

そして１０分

トーン・ポップ「到着しました」

遂に到着した。着いた所はもう森の面影すらなかった

ツタン「器械ばっかりだね」

エイシア「正確には、ほぼ器械じゃない？」

ツタン「言えてるw」

とその時「ウィーン」とリフトの音と共に

ライク「君達おめでとう！」

ツタン・エイシア「どういたしまして」

ライク「あとは４人だな」

１０分後

ザーガ「ちょろいちょろい」

ザーガが到着した。案内役はナルガクルガのようだ

その２分後

ブライト「強ういー敵がいっぱいだったよ……」

ブライトが帰還！案内役はベリオロスだ

またその１分後

ダガイ「楽しかった♪」

ダガイが着いた。案内役は……

ツタン「あれ？案内役は？」

ツタンが訪ねる

ダガイ「ここにいるじゃん」

と言って指を指した。しかし誰も居ない…と思ったその瞬間
キラっと一瞬体が見えた。そう案内役はオオナズチなのだ！（いや
分からないから！）

エイシア「なんか一瞬見えたよね？」

ダガイ「それよりあとはサイコだな」

そして5分後

ライク「……来ない…」

さらに5分後

ライク「……来ない（汗）」

そしてその１０後にやっと

サイコ「つ、着いた……」

バタ！
サイコはボロボロの状態で着いてそのまま気絶した

ツタン「だ、大丈夫！？」

しかし返事がない

ライク「こりゃ代理を呼ばないとな」

皆、代理という言葉に引っ掛かる

ツタン「なぜ代理が必要なの？もう試験は達成したんでしょ？」

ライク「甘い甘い。本当の試験はこれからだぞ？」

ツタン「えええええーーー！！！！！？？？？」

ツタンは驚いた。しかし他の全員は……

ザーガ「上等じゃん」

エイシア「面白そう」

ダガイ「楽勝だと思うぜ」

ブライト「強うぃー敵とまた戦えるー♪」

ツタン以外全員戦う事を嫌がっていない

ツタン「にしても代理って誰？」

とツタンが聞いたらライクが待ってたかのように

ライク「よし！んじゃあ出てきていいぞ！」

と言うとドアが開いた。そしてその中から縄でぐるぐる巻きにされたミュウが出てきた

ツタン「ちょ…！（汗）」

ミュウを見てみんな驚いた

全員「さ、作者！？」

作者（ミュウ）「そーだけど」

ダガイ「何故作者が！？」

作者「まあちょっと……」

ブライト「そういえばミュウとジンオウガってどう使い分けるのか？」

作者「気分で（笑）」

一方サイコが倒れている所では……

？？？「忘れさられている…（ＴｏＴ）」

１匹のピカチュウが居る

ピカチュウ「まいっか！戦わなくて済むし」

切り換え早っ！（汗）

ライクの方では…

作者「てか縄ほどいて～」

ツタン「1つ聞くけど…作者って戦力になるの？」

作者「多分なる」

というわけでほどいた

ライク「さて話しがまとまったようだな。ではいでよ！ブラ……」

第２４話　ライクの試験でサイコ達苦戦！？その２（後書き）

ライク「おい！！！！！！！」

ではまた！

サイコ「それは早すぎ」

え！そーなの！？

サイコ「うんそーなの」

えーっと今回は２１９６字書きました。え？ブラって何かって？それは来週のお楽しみ！では！！

第２５話　作者の真実（前書き）

サイコ「作者の真実？」

ついでにあるお客も来ますよ

ツタン「不安…」

では第２５話！

サイコ「大丈夫かな…」

第２５話　作者の真実

ライク「いでよ！ブラキディオス！！」

すると向こうのドアからブラキディオスと呼ばれるモンスターが現れた

ブラキディオス「うおぉぉぉぉ！！燃えてきた！！！」

ブラキディオスとは獣竜種で体は全体的に青紫で手には特殊な粘菌が付いている

ツタン「手に付いている粘菌ってやつが奇妙だね」

作者「爆発するんだってさ」

そう爆発性の粘菌である

ブライト「あんなのに勝てるのか？」

作者「その為に僕がいるじゃん」

エイシア「頼りになるの？」

作者「さっき多分って言ったよね」

しかし全員静まった…

とその時！

？？？「じゃあ俺が戦ったらどうなるかな？（黒）」

？？？「オイラも居るよ」

２匹のポケモンが機械の上に立っていた

１匹目は背中に木を持つドダイトス

ダガイ「説明短っ！（汗）」

もう１匹はゴウカザル

ザーガ「おい！（汗）」

ツタン「てかあの声ってもしかして…。ドルク！？」

エイシア「ドルクって誰なの？」

それは本人の決めゼリフを聞いてからで

ドダイトス「聞きてぇか？聞きてぇよなぁ～俺の事…俺はドダイトスのドルク！探検隊ブレイブのリーダー兼ギルド『ブレイブ』の親方で元人間だ！テメェ等のハートに刻んどきな！！」

ゴウカザル「オイラはゴウカザルのシルム！」

作者「よっ！待ってましたぁ！」

するとツタン、ザーガ、ダガイ、エイシア、ブライトは作者を睨みつけた

作者「ど、どうしたの？」

ツタン「最初から来るの知ってたんだね…」

すると作者は急に黙った

作者「ま……まぁ…」

ダガイ「てかこれじゃあライクの方が不利じゃね？」

ライク「そんな事もあると思ってある物を用意した」

ライクはある機械をとりだした

ライク「Ｌｖジェネレーター！」

『Ｌｖジェネレーター』それはＬｖを操作出来るすごいマシン。しかしそれに同意した人にしかできない、戦闘前にしか使えない、戦闘終了後には元に戻るという欠点（？）がある

ドルク「おもしれぇじゃねえか、別に構わないぜ？」

ライク「決まりだな、Ｌｖ３０ぐらいが丁度いいな」

ライクは機械のボタンを押し

ライク「『Ｌｖジェネレーター』起動！！」

すると『Ｌｖジェネレーター』は動き始め

Ｌｖジェネレーター「キドウチュウ…
キドウチュウ…」

ツタン「しゃべれるんだね」

Ｌｖジェネレーター「キドウカンリョウ！
キドウカンリョウ！
モクヒョウ、ドルク
Ｌｖ、３０
タダイマカラカイシシマス
ドルクサンカラハナレテクダサイ」

シルム「ドルクから離れなきゃね」

Ｌｖジェネレーター「エネルギーチクセキカイシ
エネルギチクセキリツ１％
５％
１０％
１４％
１９％
２４％」

ブライト「長ういーねー」

ツタン「てか蓄積って言葉で合ってるの？」

ザーガ「さぁ」

みんながしゃべっている間にもう６０％いっていた

Ｌｖジェネレーター「６０％
６３％
６７％
７０％
７３％
７６％
７９％
８４％
８９％
９３％
９６％
９９％
１００％
チクセキカンリョウ
イマカラホウシュツヲカイシシマス」

するとドルクの上に雲ができ、青い雷がドルクに落ちた。しかし

ドルク「全然痺れねぇな」

まぁドダイトスは地面タイプなので痛みがないのは当然である。ていうかその前にこの雷は痛みを感じないのである

シルム「オ、オイラは？」

ライク「ダーｍ…」

ダーメーとライクが言おうとしたそのとき！

？？？「ライクは居るか？」

後ろから声がしたので振り向いたら…

全員「一稀！？」

一稀（かずき）「みんなも居るんだな」

なぜか一稀がいた

ライク「一稀か何か用か？」

一稀「あの機械を返しにきた」

ライク「いいのか？正体がみんなにバレるぞ？」

一稀「フラストにもいいって言われてるし、それにわざわざバラシにきたんだよ（笑）」

そして一稀はある機械を取り出してライクに渡した。

ライク「たしかに受け取った」

一稀「にしてもこの機械って奇妙だね」

この機械の形…脳の形をしている

ライク「じゃあスイッチを切るぞ」

一稀「いいよ」

ライクはその機械のスイッチを切った。すると急にみんなが頭痛におそわれた。しかしそれほど痛くはない

ツタン「いっ！なんだこの痛み…」

しかし痛みよりすごい違和感が現れた

ザーガ「あれ？何か記憶がおかしいぞ」

ダガイ「一稀って誰だ？」

一稀「まぁそう言うのも無理はない。何しろエンペルトではない。そんでもってギルド『Xストリーム』の親方でもない…」

ツタン「じゃあ何？」

一稀「本当の姿はこれさ！」

するとエンペルトが違う姿になった。その姿はポケモンではなかった

全員「人間！？」

一稀「それもただの人間じゃない。作者だ！」

作者「！？（知らなかった！）」

一稀「あと作者って書いてあったら誰が作者か分からなくなるよ。まぁ作者は5人いるけどね」

と一稀が言うと

作者「じゃあ、あと3人を呼べば？」

一稀「ナイス！」

第２５話　作者の真実（後書き）

というわけでフォックさんの所からドルクとシルムが来てもらいました！

サイコ「色々とおかしい」

気のせい気のせい

さて次回はブラキディオスとバトル…かも

ツタン「かもって（汗）」

では！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7913s/

ポケモン不思議のダンジョン　夢と希望

2011年12月3日07時47分発行